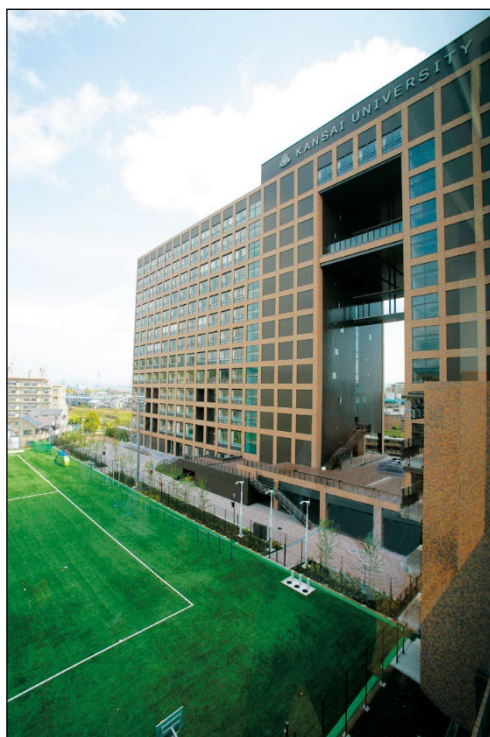


関西大学高等部・中等部 2025 年度学校評価報告



2026 年 3 月

目 次

1. 本校の概要	1
2. 今年度の重点目標における取組計画・内容、自己評価及び今後の改善方策	1
3. アンケートの実施状況	17
4. アンケート結果の分析	18
5. 学校関係者評価委員会からの評価結果	21
6. 校長の意見書	23
7. アンケート結果	24

2025 年度 関西大学高等部中等部 学校評価報告書

関西大学高等部中等部
自己点検・評価委員会

1 本校の概要

(1) 沿革

2010 年 4 月

高槻ミューズキャンパスに関西大学における 3 校目の併設校として開校。関西大学の学是である「学の実化」の理念に基づき、初等部・中等部・高等部の 12 年一貫教育を実践。高等部は安全科学科として開校。

2014 年

高等部では「持続可能な地球環境の構築に対するイノベーターの創生」を掲げ、2014 年度から 5 年間、文部科学省からスーパーグローバルハイスクール (SGH) として採択される。その実践をさらに深化させ、国連の提唱する SDGs の活動にも参加。

2016 年

高等部が安全科学科から普通科へ学科転換。

2019 年

高等部は、SGH 終了後もグローバル人材育成の取り組みを継続するために、SGH ネットワーク校としての教育活動を継続。

2023 年

スクールポリシーを策定し、次のステージを見据えた一層の教育の充実に向けて始動。

(2) 教育理念・教育方針・教育目標等

関西大学の教育理念「学の実化」（学理と実際との調和、国際的精神の涵養、外国語学習の必要、体育の奨励）に基づき、教育を展開する。また、初等教育から高等教育までの一貫教育を同一キャンパス内で実践することのメリットを最大限に活用し、個人の成長段階を継続的に把握しながら、自ら考え、主体的に行動して責任をもってより良い社会を築くための力「考動力」を有する人材を育成する。

「確かな学力」「国際理解力」「情感豊かな心」「健やかな体」をバランス良く高めることにより、人間力の基礎となる部分を養い、高い倫理観と品格を有する「高い人間力」を持つ人材を育成し、ユニバーサル（全世界的、万人に通じる、普遍的）な視野を持つ「たくましく」「しなやかな」人材を育成する。

2 今年度の重点目標における取組計画・内容、自己評価及び今後の改善方策

(1) 重点目標①：確かな学力の定着と向上・進路の実現

達成状況の目安：(◎) 大幅達成・(○) 達成・(△) 未達成・(×) 大幅未達成

取組計画及び評価指標 (Plan)	自己評価
ア 家庭学習を定着させる。また、生徒の学力の定着を確認し、スローラーナーの学力向	【取組状況 (Do)】 年間計画に基づき、6 月に学力推移調査及びスタディサポートの分析会、10 月と 3 月に学力推移調査の分析会を行った。いずれ

上をサポートする。 【評価指標】 ・年3回の学力推移調査の校内分析会を開催し、各学年において具体的な対策を検討する。 ・各定期考査及び学力推移調査の成績不振者に対して個別指導等のフォローを行う。 ・学力向上に関して、生徒アンケート設問9で、80%以上の肯定的回答を得る。 ・スローラーナーへの対応に関して、生徒アンケート設問16で、80%以上の肯定的回答を得る。	も、ベネッセの担当者をお招きし、資料をもとに具体的な分析を行った。 昨年度に引き続き、各定期考査の成績不振者に対してフォローアップ補習を全教科で実施した。 中等部では、日々の課題、放課後の小テスト、課題点検等を通じて学習状況を継続的に確認し、家庭学習の定着を図った。また、成績優秀者表彰を行い、学習意欲の向上にも努めた。 高等部では丁寧な面談を実施し、生徒自身に学習に対する自己分析をさせ、保護者の協力も得ながら弱点の克服に努めた。 さらに、中等部、高等部ともに、教員が日常的に生徒からの質問に対応できる体制を整え、昼休みや放課後の時間を活用してきめ細やかな指導を行った。 【達成状況(Check)】 (△) 学力推移調査及びスタディサポートの分析会を通じて、ベネッセ担当者の助言を得ながら、データに基づいた具体的な分析を行った結果、各学年においてここ数年で最も高い成績水準を示す結果となった。また、中等部、高等部ともに、家庭学習の時間が全体的に増加する傾向が見られ、生徒の学習習慣の定着と学習への意識向上が確認できた。成績不振者に対して実施したフォローアップ補習については、個別的な対応にとどめず、制度的な学習支援として位置づけ、保護者の理解と協力を得ながら継続的に実施できた。さらに、この効果を検証するため、対象生徒の偏差値推移を分析した。その結果、中等部1年生及び高等部1年生において、フォローアップ補習後に成績の向上が見られ、学齢が低い段階ほど補習の効果が高いことが確認できた。一方、中等部、高等部ともに3年生においては、低学力層の生徒の成績が大きくは変動せず、定着する傾向が見られた。これらの結果からも、フォローアップ補習が掲げる「学び直し、学びを諦めないための回復支援」という目的は、特に初期段階において有効に機能していることが確認できた。 生徒アンケート設問9「学力向上のために組織的な取組を行っていると思いますか。」では、1・2の肯定的回答が、中等部で80.9%、高等部で85.1%と、目標を達成した。また、同設問16「習熟が遅れた場合、補習授業や個人指導で適切なフォローアップをしてもらえる仕組みがあると感じていますか。」では、1・2の肯定的回答が、中等部で80.6%、高等部で79.0%と、フォローアップ補習実施前の2023年度よりは大きく上回っているものの、昨年度より少し下回り、高等部では目標を達成できなかった。
--	--

	【今後の改善方策(Action)】 家庭学習時間の確保と定着については一定の成果が認められたことから、なぜ学習時間の増加につながったのか、指導方法や声かけ、課題設定の在り方などを教員間で振り返り、全学年で持続可能な取り組みとして整理する。また、生徒の努力を適切に評価し励まししながら、学習に対する達成感を高め、さらなる学習意欲の向上につなげていくことが重要である。引き続き、表彰や面談、日常的な声かけを通して、生徒一人ひとりが前向きに学習に取り組める環境づくりを継続していく。 フォローアップ補習については、実施2年目となったことで、生徒や保護者の期待値が昨年度よりも低下する傾向が見られた。この点を踏まえ、補習の目的や意義を改めて共有し、その効果を実感できるような内容へと改善を図る必要がある。具体的には、生徒個人の内的変化を分析するためのアンケート調査を行い、生徒自身が「どの単元の、どの段階でつまづいているのか」を振り返らせ、早期の段階でのつまづきを支援するとともに、その箇所を再習得する機会を確保する。さらには、次の定期考査や日々の授業に向けた具体的な学習目標を設定し、取組内容を明確にしていく。その過程を教員が確認することで、フォローアップ補習をより効果のある学習支援として充実させていく。
イ 生徒が希望する進路や学習状況を把握し、6年間を見通した進路指導を実現する。 【評価指標】 ・進路希望調査や個人懇談、三者懇談を実施し、生徒の進学志望状況を把握する。 ・大学進学の情報提供等に関して、生徒アンケート設問11で、中等部80%以上、高等部85%以上、同設問12で、中等部75%以上、高等部85%以上の肯定的回答を得る。	自己評価 【取組状況(Do)】 高等部で、年間計画に基づき、4月と9月に進路希望調査を実施し、その時期に合わせて担任と生徒との個人懇談を実施した。また、中等部、高等部ともに、7月と12月に、担任、生徒、保護者による三者懇談を実施した。 【達成状況(Check)】 (○) 進路希望調査の結果に加え、教務部や各学年において作成した定期考査や模擬試験の結果、日頃の学習状況が把握できる資料等を活用して三者懇談を行ったことで、保護者の意向も含め、生徒一人ひとりの進路志望や学習状況を丁寧に把握することができた。 生徒アンケート設問11「人生の目標をもち、そこから大学や学部を選び、主体的に進路選択ができる仕組みがあると思いますか。」では、1・2の肯定的回答が、中等部で87.5%、高等部で88.4%とそれぞれ目標を達成した。また、同設問12「関西大学やその他の大学に関する必要な情報があり、大学進学に対しての意欲が高まる仕組みがあると思いますか。」では、1・2の肯定的回答が、中等部で77.7%、高等部で90.9%とそれぞれ目標を達

	成した。 【今後の改善方策(Action)】 アンケートの結果から、中等部、高等部ともに目標を達成しており、進路指導及び情報提供の仕組みが一定程度は機能しているものの、いずれの設問においても中等部の数値が高等部より低い結果となった。これは、生徒の発達段階や進路意識の成熟度の違いによるものと考えられる。 今後は、中等部においても、進路指導の重要性を踏まえ、早い段階で、生徒自身の将来像を意識する取り組みが必要となる。そこで、進路指導部と各学年が連携し、生徒の実態や発達段階に応じた指導内容や情報提供の方法を検討し、6年間を見通した体系的なキャリア教育を進めていく。
ウ 高大接続を充実させたキャリア教育を推進し、関西大学への進学数を維持する。 【評価指標】 ・関西大学学部説明会や、高大接続プログラムへの積極的な参加を促し、1人当たり2学部以上の参加をさせる。 ・関西大学へ105名以上の内部進学希望者を出す。 ・関西大学への内部推薦の合格率100%を目指す。	自己評価 【取組状況(Do)】 高大接続の行事を計画的に年間行事に組み込み、生徒が、関西大学へ進学する際にミスマッチが生じないように、各学年における説明会の実施や、高大連携イベントに関する情報提供を行った。また、オープンキャンパスや学部説明会への積極的な参加を促した。 さらに、千里山キャンパス以外のキャンパスにおける見学会についても計画を立て、実行した。 【達成状況(Check)】 (○) 高等部1年生では関西大学説明会(千里山キャンパス)に全員が参加、高等部2年生では各学部説明会へ1人2学部以上の参加、全学年で高大連携プログラムに希望者が参加した。また、昨年に引き続き、セミナー「関大の講義に学ぶ」、高大連携特別プログラム、その他公開講座等にも、希望生徒が参加した。 さらに、高等部1年生で4月に高岳館での宿泊行事を実施し、総合情報学部のキャンパスツアーを行ったほか、同学年で今年度新たに吹田みらいキャンパスツアーも実施した。 関西大学への内部進学希望者は119名となり、特別推薦及びチャレンジ入試で20名、卒業見込者入試で99名が合格し、合格率は100%であった。合格者119名は過去最多であり、合格率とともに目標を達成した。 また、内部進学が確定した生徒に対しては、関西大学教育推進部と連携し、キャンパスライフ直前講座を実施することで、大学進学後を見据えたサポートも行った。 【今後の改善方策(Action)】 千里山キャンパス以外のキャンパスツアーについては、社会安

	全学部（高槻ミュージックキャンパス）との中大接続プログラムや、人間健康学部（堺キャンパス）のキャンパスツアーを計画していたものの、今年度は実施に至らなかった。これらの課題については、引き続き具体的な計画を立て、各学部と連携を図りながら、2026年度の実施に向けて取り組んでいく。 関西大学への進学希望者状況については、次年度以降も105名以上が維持できるよう、引き続き進路指導部と各学年が連携し、生徒へ新しい情報を提供しながら、丁寧な進路指導を継続していく。
エ 難関国立大学、医歯薬学部希望生徒の進路実現 【評価指標】 ・難関国立大学及び、医学部医学科へ10名以上の合格者を出す。	自己評価 【取組状況(Do)】 Ⅱ類クラスを中心に定期的な進路面談を実施し、学習状況や模試の結果をもとに、志望校の検討や学習計画の見直しを行った。特に難関国立大学や医歯薬学部を志望する生徒に対しては、早い段階から志望理由書の指導を行い、自身の将来像や学びへの動機を明確にすると共に、学習意欲の向上を図った。 日常的に、休み時間等の生徒からの質問対応を充実させ、生徒の学力や志望校に応じて、個別の問題集やプリントを作成し、弱点補強や発展的学習に取り組んだ。 大阪医科薬科大学との高大接続教育を目的として、本校から大阪医科薬科大学高大接続センターのセンター員を派遣し、年2回程度のセンター会議に参加した。 【達成状況(Check)】 (○) 大阪医科薬科大学医学部医学科から1名の指定校推薦枠が設けられ、本校から1名を推薦し合格した。 また、学校推薦型選抜・総合型選抜入試において、大阪大学に4名、神戸大学に1名が合格した。 さらには、一般入試において、京都大学に1名、神戸大学に2名、岩手医科大学医学部医学科へ1名が合格し、難関国立大学及び医学部医学科への合格が10名となり、目標を達成した。 また、近畿圏において、近年非常に人気が高く入試が難化傾向にある大阪公立大学へ4名が合格したことも大きな成果であった。 【今後の改善方策(Action)】 生徒の学力や志望校、進路意識には個人差があり、一人ひとりの実態に応じたより丁寧で継続的な進路指導が求められる。特に難関国立大学や医歯薬学部を志望する生徒に対しては、早期からの学習計画立案と定期的な振り返りを通じて、長期的な視点に立った支援を充実させる必要がある。また、大阪医科薬科大学医学

	部医学科からの指定校推薦枠を今後も安定的に維持していくために、大学側との丁寧な連携を継続し、高大接続の取組内容や本校生徒の学習状況を適切に共有し、信頼関係の深化を図っていく。 難関国立大学及び医学部医学科へ毎年 10 名以上の合格者を輩出するという目標を継続的に達成していくためには、当該学年のみの取り組みにとどめず、高等部第 3 学年と進路指導部が中心となって今年度の指導内容や成果、課題を総括し、次の学年へ継承していく体制づくりが必要である。
--	---

(2) 重点目標②：個性を伸ばす教育の実践

取組計画及び評価指標 (Plan)	自己評価
ア 探究学習の深化、充実を図る。 【評価指標】 ・ 中等部「考える科」「総合的な学習の時間」について、社会の変化に合わせて内容を進化させる。 ・ 探究学習と有機的に結びつけた教科指導を実施する。 ・ ポスター発表会や卒業研究発表会などを生徒がより主体的に参加できる取組に発展させる。 ・ 課題設定、情報収集、情報活用、表現活動など、探究学習に必要なコンピテンシーを育成する取組を充実させる。 ・ 探究学習に関して、生徒アンケート設問26で、中等部80%以上、高等部90%以上の肯定的回答を得る。	【取組状況(Do)】 中等部の「総合的な学習の時間」では、年間計画に基づき、1年生で「MACHI プロジェクト」、2年生で「MIRAI プロジェクト」、3年生で「MICHU プロジェクト」を実施し、フィールドワークや、ゲストティーチャーによる講演会を通じて、課題解決型の学習活動を行い、年度末に総合学習発表会を実施した。 高等部のプロジェクト学習では、6月に3年生の卒業研究発表会予選会を実施し、2年生も聴衆者として参加した。また、2週間後に、ここでの優秀発表者による卒業研究発表会本選会を実施し、高等部全学年が聴衆者として参加した。11月には2年生によるポスター発表会を実施し、1年生と中等部3年生も聴衆者として参加した。2月には1年生のゼミ内発表会を実施した。 【達成状況(Check)】 (○) 中等部では、各学年の「考える科」及び「総合的な学習の時間」を計画通り実施した。中でも、中等部2年生では、コロナ禍以降実施できていなかった産業フィールドワークを数年ぶりに実施することができ、実際の職業現場に触れることで、生徒の産業への理解が一層深まり、その学びを日置川宿泊研修へとつなげることができた。各学年の取り組みについて、年度末に総合学習発表会を開催し、それぞれ系統的に進めている探究学習について報告することができた。 高等部では、5月に3年生の卒業研究発表会予選会を実施し、2年生が聴衆として参加することで、学年間の学びの継承が図られた。予選会では、今年度も活発な意見交換が行われ、生徒同士が互いの研究内容を深め合う場となった。続いて実施した卒業研究発表会本選会では、代表生徒による発表を高等部全学年が緊張感をもって聴講し、探究の質の高さを共有する機会となった。ま

	た、11月に実施した高等部2年生のポスター発表会では、2年生が入念な準備を重ねた成果が発表に表れ、その真剣な姿勢が聴衆である1年生や中等部3年生にも伝わった。発表者と聞き手が一体となり、学年を超えて学びを共有する、質の高い発表会を創り上げることができた。 さらに、昨年度の課題を踏まえ、今年度は高等部1年生の探究活動をグループ研究から個人研究へと変更した。その結果、生徒一人ひとりが自分の関心に基づいて、よりゆとりをもった計画で研究を進めることができ、探究学習の中核となる課題設定に十分な時間をかけることが可能となった。 生徒アンケート設問26「プロジェクトの授業(考える科や総合的な学習の時間を含む)を通じて、課題設定、情報収集、課題解決、表現する力が身についていると思いますか。」では、1・2の肯定的回答が、中等部で82.9%、高等部で92.4%と、それぞれ目標を達成した。 【今後の改善方策(Action)】 教育活動において、生成AIの利活用が不可欠となる中、生徒が適切に利活用できるためのリテラシーの育成が課題である。そこで、中等部の「考える科」において、生成AIを正しく理解し、目的に応じて利活用できる力を育成するための新たなプログラムを導入する。また、高等部のプロジェクト学習については、生成AIを単なる情報収集の手段にとどめるのではなく、論文や研究内容を評価し、改善するパートナーとして利活用することで、生徒が自らの研究を客観的に捉え、論理性や表現力を高める学びにつなげることができる。 また、中等部3年生「MICHIプロジェクト」とカナダ研修旅行の活動を有機的に結びつけ、より深い学習体験へと改善する。さらに、中等部の「考える科」については、開校当初の内容を再点検し、現代社会や生徒の実態に即した内容へと再構築する。そのためにも、生徒に身につけさせたい力を改めて分析し、カリキュラムの見直しを進めていく。
イ 国際理解教育の深化、充実を図る。 【評価指標】 ・ 中等部、高等部とも、海外の学校や団体との交流活動を積極的に展開する。 ・ 海外短期交換留学や語学研修	自己評価 【取組状況(Do)】 短期交換留学において、5月の日韓交流プログラムでは、韓国の東灘（ドンタン）国際高等学校から昨年より多い16名の短期交換留学生を受け入れた。7月に協定校である台湾の國立臺灣師範大學附屬高級中學國中部から、中等部2年生の家庭に3名の留学生を受け入れた。この期間にオーストラリアのメルボルン大学 Asialink から7名の高校生も受け入れ、日豪台で生徒交流を行

について、それぞれ実施可能な生徒数を集める。 ・校内での国際交流活動を生徒主体で運営する。 ・海外大学進学を希望する生徒に向けた取組を進める。 ・国際理解に関して、生徒アンケート設問 25 で、75%以上の肯定的回答を得る。	うことができた。また、12 月には高等部 9 名の生徒が韓国へ、3 月には中等部 3 名と高等部 2 名が台湾へ、高等部 6 名がシンガポールのホワチョンインスティテューションを訪問した。 夏期イギリス研修には、高等部 14 名が参加し、事前学習、コッツウォルズ地方でのホームステイ、現地校での語学研修、事後学習を行った。 中等部 3 年生でカナダ研修旅行を実施し、昨年度に引き続き、ロイヤルベイ、エドワードミルン、ベルモントの 3 校を訪問して授業体験と生徒交流を行った。 高等部 2 年生でのタイ研修旅行では、現地のパンヤピワット経営大学附属高等学校（SATIT PIM）との生徒交流、現地の企業訪問、スラムフィールドワーク等を行った。 中等部 3 年生で、1 月から 4 名の生徒がニュージーランドでホームステイと現地校でのターム留学を行った。 【達成状況(Check)】 (◎) 日韓交流プログラムの受け入れ生徒 16 名については、昨年度を上回る参加人数となったことから、相手校にとっても本取り組みが有意義なプログラムと認識されていることが確認できた。さらに、12 月の韓国訪問時には、次年度以降の姉妹校協定締結に向けた協議が進むなど、交流の深化が図られた。また、台湾の協定校からの留学生受け入れと同時期に、オーストラリア・メルボルン大学 Asialink から高校生を受け入れ、日豪台による交流が実現した。特に Asialink からの受け入れは本校として初の取り組みであり、日本語を学ぶオーストラリアの生徒との交流は本校生徒にとって大きな刺激となった。加えて、それぞれの交流の際には、国際交流委員の生徒が積極的にイベントを考え、昨年度以上に生徒が主体となって進めることができた。また、昨年度から導入した第二外国語（韓国語・中国語）も継続して実施し、英語以外の言語や文化に触れる機会を持つことができた。 さらに、海外大学進学協定校推薦制度（UPAS）については、説明会の案内を初等部保護者にも拡大した結果、100 組以上の参加があり、早期から多様な進路選択への理解を促すことができた。制度導入の成果として、2027 年度入学を見据えた取り組みの中で、先行して 2026 年度入学においてイギリス及びアメリカの大学への合格者を輩出することができた。 生徒アンケート設問 25「国際理解教育プログラムを通じて、外国語を使う力と、異文化を理解する力が身についていると思いますか。」では、1・2 の肯定的回答が、中等部で 80.2%、高等部で 83.3%とそれぞれ目標を達成した。
---	---

	【今後の改善方策(Action)】 台湾やシンガポールの協定校との交流については、情勢や交流校の事情等により継続が難しくなりつつある一方で、ハワイ、オーストラリア、中国の学校から新たな交流の打診もあり、昨年度からの課題であった交流校の精査について、本格的に再検討を進める時期に来ている。また、夏期イギリス研修については、参加費が高騰し、一定の参加人数を確保することが難しくなっている。今後は、研修時期や日程、プログラム内容を見直し、生徒が参加しやすい形への改善が必要である。 さらに、海外大学進学に関しては、2027 年度入学の成果を出す必要がある。そこで、UPAS 制度を活用する生徒と定期的に面談を行い、一人ひとりの希望や適性を丁寧に把握しながら、志望する進学先の実現に向けた支援を継続していく。
ウ ICT 機器を活用した先進的な教育活動の深化と充実を図る。 【評価指標】 ・生徒会主催の ICT に関する研修を年 1 回以上開催する。 ・ICT 推進委員会を定期的に開催し、生成 AI 活用についてのガイドライン等を策定する。 ・生成 AI を活用した先進的な教育活動を実施し、ICT 推進委員会において検証する。 ・ICT 環境の活用に関して、教員アンケート設問 17 で、85%以上の肯定的回答を得る。 ・学校感染症拡大防止のための休校や学年閉鎖、学級閉鎖等において、オンラインでの課題配信、動画配信、ライブ授業等の実施を促進する。	自己評価 【取組状況(Do)】 7 月に、ICT 委員会（生徒）主催で、生徒対象の ICT 研修を実施した。 ICT 推進委員会（教員）では、毎月 1 回の委員会を開催し、先進的な教育活動の方向性を検討した。 生成 AI 活用についてのガイドライン策定のため、初等部と合同で定期的に会議を開催した。 感染症拡大防止のための学級閉鎖の際は、オンラインでの課題配信、動画配信、ライブ授業等に切り替えて実施した。 【達成状況(Check)】 (◎) 7 月には、ICT 委員会（生徒）主催による生徒対象の ICT 研修を実施し、社会安全学部の河野和宏准教授の助言のもと、フェイク動画を題材とした実践的な研修会を行った。生徒自らがフェイク動画を制作し、分析する活動を通して、情報の真偽を見極める力や ICT リテラシーについて主体的に考える機会となった。 教員による ICT 推進委員会では、毎月 1 回の定例会を開催し、先進的な教育活動の方向性について検討を重ねた。また、今年度実施したコンピュータのリプレイスについては、事前に十分な協議を行ったことで、更新後も校内業務や授業を滞りなく進めることができた。 生成 AI の利活用に関しては、初等部と合同で定期的に会議を行い、中高等部としての生成 AI 活用ガイドラインを策定した。策定したガイドラインはホームページで公開し、校内外に対して本校の方針を明確に示すことができた。さらに、6 月の「Think×Act×Creation2025」において、3 人の授業者が生成 AI を利活用

	した公開授業を行ったことに加え、2月の研究発表会では、授業者や生徒の学習活動の中で生成AIを活用する場面が見られ、教員による新たな授業実践への挑戦も確認できた。 感染症拡大防止のために学級閉鎖となった際には、必ずオンラインでの課題配信、動画配信、ライブ授業へ切り替えることができた。 教員アンケート設問17「タブレット端末やPCなど充実したICT環境を効果的に活用する授業づくりに取り組んでいる。」では、1・2の肯定的回答が、86.4%と、目標を達成した。昨年度は目標を下回ったが、今年度は生成AIの取り組みを行ったことがこの結果につながったと考えられる。 【今後の改善方策(Action)】 生成AIの進歩は極めて速く、十分な検討と検証を重ねてから実践に移る手法では、教育現場の変化に対応しきれない。そのため、一定の共通理解やガイドラインを前提としつつ、授業者がスピード感をもって実践に挑戦できる環境を整えることが重要である。あわせて、教員が安心して生成AIを活用できるよう、実践事例の共有や研修を実施していく必要がある。そのためにも、ICT推進委員会等での協議内容や方向性が、一部の教員にとどまらず学校全体に十分共有されるよう工夫し、全教員の意識改革を進めていく必要がある。 さらに、生徒が学習の中で活用する生成AIについては、情報の信頼性や教育的効果、リスクの観点から精査を行い、ガイドラインのブラッシュアップを図るとともに、学校として適切なツールや活用範囲を示していくことが求められる。
エ 地域社会や大学との連携を促進し、社会に開かれた教育活動の充実を図る。 【評価指標】 ・高等部「プロジェクト基礎」「プロジェクトゼミ」の全20ゼミで、外部講師を関西大学の教員から登用する。 ・中等部「考える科」「総合的な学習の時間」、高等部「プロジェクト基礎」「プロジェクトゼミ」、及び各国際理解教育プログラムにおいて、積極的な国・	自己評価 【取組状況(Do)】 高等部1年生でのプロジェクト基礎10ゼミ、2年生でのプロジェクトゼミ10ゼミの合計20ゼミで、関西大学の教員による年間6回程度のゼミ指導を実施した。 中等部「考える科」「総合的な学習の時間」及び高等部「プロジェクト基礎」「プロジェクトゼミ」を中心に、学年活動や教科指導においても、積極的に地域に開かれた教育活動を展開した。 また、今年度は大阪・関西万博が開催されたこともあり、本校として、大学や企業などと連携し、参加した。 【達成状況(Check)】 (◎) プロジェクト科目については、法学部、文学部、経済学部、商学部、社会学部、政策創造学部、人間健康学部、社会安全学部、環境都市工学部、化学生命工学部に加え、教育推進部や国際部が

地域や企業、学校と連携した活動を実施する(中高合わせて年間100団体以上を目標とする)。 外部へのコンテストやコンクールへの参加を促進する。	ら講師を招き、幅広い分野でご指導いただくことができた。 中等部の「考える科」や「道徳の時間」「総合的な学習の時間」及び高等部の「プロジェクト科目」、その他課外で取り組む探究学習において、150以上団体との連携を実施し、目標を大きく上回った。 高等部生を中心に外部のコンテストやコンクール、発表会などへの参加を促した結果、日経STEAMシンポジウム2025（私たちは問う自由で豊かな未来のために発表コンテストSHIONOGI特別賞）、SB Student Ambassador西日本大会、大阪・関西万博を契機とした「イノベーションハブ共創プロジェクト」、KANKO NEXT VISION（菅公学生服株式会社新作発表会）、ウアイヌコロ会議など多くのイベントに参加することができた。 さらに大阪・関西万博においては、合唱部が開幕初日の「1万人の第九 EXPO2025」に参加、吹奏楽部が「ブラスエキスポ 2025」に出演し、世界最大のマーチングバンドとしてギネス記録認定、中等部3年生が TEAM EXPO パビリオンにて「Japanese Culture Festival」を開催、同じく高等部が菅公学生服株式会社及び Able Art Company と共同で「アートがつなぐ、自由で豊かな未来」の発表、さらには高等部がヘルスケアパビリオンにおいて、関西大学万博部と協同で「非常食アレンジレシピ」の発表などを行い、大阪で開催された世界規模のイベントに積極的に参加することができた。 本校が所在する高槻市との地域連携については、中等部1年生の「MACHI プロジェクト」、中等部2年生の「人権体験学習」、中等部3年生の「いのちの学習」をはじめ、異文化理解講座や海外協力グループとの交流、葦葉祭への招待、金融教育や英語スピーチコンテストへの参加、部活動を通じた交流、第二外国語や事故防止研修における講師派遣など、多様な教育活動の場面において連携を図ることができた。 【今後の改善方策(Action)】 プロジェクト科目の外部講師については、なるべく多くの学部 の教員に関わってもらえるよう、引き続き関西大学の関係部署や各学部と連携し、調整を進めていきたい。 また、今後も地域社会との連携を促進し、社会に開かれた教育活動の充実を図るため、さらに多くの企業や団体と連携した活動ができるよう調整を進めていきたい。
---	---

(3) 重点目標③：教職員の自己研鑽及び学校運営の健全化

取組計画及び評価指標 (Plan)	自己評価
-------------------	------

ア 授業力の向上を図る。

【評価指標】

- ・各教科で、「問いを引き出す授業デザイン」をテーマとした授業研究を行い、校内研究授業を年2回以上実施する。
- ・思考力に関して、生徒アンケート設問13で、80%以上の肯定的回答を得る。

【取組状況(Do)】

6月に各教科で研究授業と研究協議会を実施し、その結果について8月の校内教員研修内で共有した。

11月に「高槻ミューズキャンパス初・中・高をつなぐ英語考動力育成のためのカリキュラム開発」をテーマに、初中高合同英語研究授業と研究協議会を実施した。

2月の初等部・中等部研究発表会において、「自立した学習者の育成～問いを引き出す授業デザイン～」を主題として公開授業と研究協議を行った。

【達成状況(Check)】 (◎)

本年度は、6月に各教科で研究授業及び研究協議会を実施し、その成果を8月の校内教員研修で全教員に共有した。研修では、授業内でどのように生徒の「問い」を引き出すかについて教科横断的に議論を行い、2月の研究発表会へとつなげることができた。

11月には、「高槻ミューズキャンパス初・中・高をつなぐ英語考動力育成のためのカリキュラム開発」をテーマに、初中高合同の英語研究授業及び研究協議会を実施した。初等部6年生、中等部1年生、高等部2年生による公開授業と研究協議会には、公立や私立の教育関係者に加え一般企業からの参加者も含め、40名以上の参加があり、本校の研究テーマが最新の教育課題として高い関心を集めていることが確認できた。また、今年度も関西大学外国語学部の今井裕之教授を指導助言者として迎え、新しい学習指導要領の動向をもとに、本研究授業の助言をいただけたことは参加者全員にとって非常に有益であった。

2月の研究発表会では、「問いを引き出す授業デザイン」を主題として、中等部から国語、数学、社会、理科、保健体育、外国語の6教科6クラスによる公開授業と研究協議会を実施した。今年度の公開授業では、8月の校内研修での学びが活かされ、各教科において生徒から「問い」を引き出すための授業デザイン（しかけ）が随所に見られた。また、複数の教科において、授業者及び生徒が生成AIを活用する場面も見られ、授業実践が新たな段階に入っていることも公開できた。各研究協議会には一般参加者も加わり、活発で実りのある議論が行われた。

研究発表会に中等部の名称が加わり、年間を通して各教科で授業改善について継続的に議論できたことは、本年度の大きな成果である。

生徒アンケート設問13「ものごとを論理的に考えたり、批判的に考えたりするなど、思考力が高まる仕組みがあると思います

	か。」では、1・2の肯定的回答が、中部部で83.3%、高等部で88.5%と、それぞれ目標を達成した。 また、教員アンケート設問15「主体的・対話的で深い学びを意識し、生徒が思考力を高めるための授業づくりに取り組んでいる。」では、1・2の肯定的回答が、88.6%と高い数値を示し、充実した研究活動であることが確認できた。 【今後の改善方策(Action)】 本年度は、各教科で年間を通じて授業研究に取り組めたことが大きな成果であったが、今後は教科ごとに成果の共有をするだけでなく、教科横断的な視点で研究を行い、授業改善の取り組みを広げていくことが課題である。次年度も、校内研修や研究協議の場を活用し、教科の枠を超えた実践交流を行うことで、学校全体の授業力向上につなげていく。また、研究発表会での公開授業について、一過性のものとせず、日常の授業改善にも還元できるよう、各教科で工夫していく。外国語科における初中高合同研究授業については、より多くの教育関係者と共同で研究を進めるため、研究内容や成果を積極的に発信し、広報活動も強化していく必要がある。 次年度の初等部・中部部研究発表会に向けては、今年度の成果を基盤とし、継続的な授業研究を通して、より高次の思考力を育成できるよう、教員自身の研修にも一層力を入れていく。
イ 教員研修の充実を図る。 【評価指標】 ・授業研究、人権教育、事故対応(AED)、防災、探究学習、生徒指導、ICT活用、進路指導、入試広報に関する校内研修をそれぞれ年1回以上実施する。 ・教員の自己研修を推進し、研修した内容を職員会議等でフィードバックする。 ・研修体制に関して、教員アンケート設問32で、65%以上の肯定的回答を得る。	自己評価 【取組状況(Do)】 4月に AED やエピペン講習を含む事故防止に関する教員研修を実施した。 6月と11月に人権教育の教員研修を実施した。 8月に校内研修会を実施し、進路指導、授業研究、生徒指導・保護者対応に関する教員研修を実施した。 11月に海外大学進学制度(UPAS)についての教員研修を実施した。また、関大防災Dayを実施した。 10月と12月及び1月に、入試利用のためのデジタル採点の教員研修を実施した。 2月に探究学習の教員研修を実施した。 昨年度から引き続き、「教員の自己研鑽」を重点目標に掲げ、教員に研修への参加を促すとともに、各教員の研修状況を集約した。また、数名の教員の研修内容について、職員会議においてフィードバックを行った。 【達成状況(Check)】 (○) 4月の事故防止研修では、高槻市消防本部から講師を招き、例

	年通り 5 つのグループに分かれてロールプレイ形式の研修を行った。今年度は「てんかん発作」「嘔吐物処理」「熱中症」「エピペン」「AED」への対応について講習を受けた。体験後には全体で振り返りを行うとともに、講師からロールプレイの内容について講評をいただいた。 人権教育研修については、6 月に梅花女子大学から講師を招き、発達症特性のあるこどもの理解と支援についての研修を行った。また、11 月に立命館大学から講師を招き、Q-U 心理検査の結果を多面的に分析し学級運営につなげるための研修を実施した。 8 月の校内研修では、夏期休業期間を活用して終日の教員研修を行った。冒頭では、校長より「関西大学中等部高等部の現在地とこれから」をテーマとした学校運営に関するビジョンの説明があり、研修を開始した。まず進路指導部の研修では、国公立大学の総合型、学校推薦型選抜及び中等部学力推移調査の動向についての説明の後、大学推薦入試に向けた課題や、中等部からの内部進学向上に向けた方策についてグループ討議を行った。また、研究開発部の研修では、6 月に実施した各教科の研究授業についての共有があった後、生徒から問いを引き出すための授業づくりについてグループ討議を行った。さらに、生徒指導部の研修では、「生徒指導時における保護者対応ガイドライン」の周知と、本校の「いじめ防止対策推進法」に基づく取り組みの確認を行った後、いじめ事案に関する保護者からの電話対応について、グループごとにロールプレイを実施した。 11 月の海外大学進学制度 (UPAS) の教員研修では、近畿日本ツーリストから講師をお招きし、制度の仕組みについての説明を受けた。 1 月と 2 月の中等部・高等部入試においては、本年度初めてデジタル採点を採用したが、事前に計 3 回の教員研修を実施したことで、当日に関しては大幅な業務軽減及び時間短縮を図ることができた。 2 月の探究学習研修では、今年度も関西大学教育推進部の山田剛史教授を講師としてお招きし、生成 AI と探究学習についてのご講演をいただいた。各教科及びプロジェクト科目において、今後の教育活動のあり方を考える有意義な機会となった。 職員会議における各教員からの研修フィードバックは、マナー研修、授業づくり、熱中症予防対策、防災に関する内容について、それぞれの研修に参加した教員が全体へ報告を行った。 今年度の教員の校内研修と自主研修の状況を集約したところ、約 50 名の教員で、延べ 460 回以上の研修を受講していた。受講
--	--

	内容としては、探究活動、進路指導、人権教育、生徒指導、教科指導に関する研修が多く見られた。なお、個人での参加が少ない傾向にあった探究学習や生徒指導については、全体研修として実施することで受講者数を増やすことができた。 教員アンケート設問 32「本校は、教員の資質向上及び指導力向上のための校内外の研修体制が整っている。」では、1・2の肯定的回答が、81.9%と昨年を大きく上回り、目標を達成した。 【今後の改善方策(Action)】 教員の研修状況については、今年度も昨年度に引き続き各教員が意欲的に参加しており、一定の成果が認められる。今後も、個人研修と全体研修とのバランスを考慮しながら、計画的に研修を実施していきたい。また、全国的に児童や生徒数の減少により、今後私立学校としての生徒募集が厳しくなることが予想される。そこで、入試広報に関する研修を今後さらに充実させていく必要がある。 職員会議での研修フィードバックについては、短時間でありながら、それぞれの各教員の研修内容を共有できる有効な取り組みであった。次年度以降も継続して実施していきたい。
ウ 超過勤務時間の削減に向けた業務改善や組織体制の強化を図る。 【評価指標】 ・各分掌において業務の見直しを検討する。 ・各分掌主任と定期的に面談を行い、業務の遂行状況を確認する。 ・クラブ活動・同好会の指導における外部指導員を昨年度より増員する。 ・月に1回以上、超過勤務削減に向けた面談を実施する。 ・各種会議において、案件を整理し、ICTを活用するなど、効率良く機能的に運営する。 ・各種会議に関して、教員アンケート設問4で、75%以上の肯定的回答を得る。	自己評価 【取組状況(Do)】 各分掌主任と定期的に面談を実施し、業務の遂行状況の確認及び業務見直しの可能性について聞き取りを行った。 各部活動・同好会顧問と相談し、外部指導員の業務委託を検討した。 超過勤務状況を継続的に把握し、超過勤務が多い教員に対して、個別面談を実施した。加えて、当該教員が所属する学年主任や分掌主任とも情報共有を行い、組織的な対応を図った。 【達成状況(Check)】 (○) 各分掌主任との面談を通じて業務状況を丁寧に把握し、超過勤務の多い教員への個別面談を実施した結果、前期については昨年度より超過勤務時間を削減することができた。一方、後期については昨年度より削減には至らなかった。要因として、中等部・高等部入試問題作成業務及び進路指導業務の負担が挙げられるため、これら後期の重点業務については、業務内容や体制の見直しが課題である。 部活動指導については、指導時間や指導回数の多い部の顧問と相談し、外部指導員を昨年度よりさらに増員することができた。 教員アンケート設問4「職員会議や学年会議、教科会議などが効率よく機能的に運営されている。」では、1・2の肯定的回答

	が、93.2%と昨年度を大きく上回り、目標を達成した。 【今後の改善方策(Action)】 質の高い教育の提供と教員の健康管理の両立を図るため、超過勤務削減に向けた業務見直しを引き続き推進する。特に、慢性的に超過勤務が多い教員については、勤務計画を明確化し、組織的に業務配分を見直していく。また、後期に業務が集中する入試及び進路指導については、業務の平準化や役割分担の再検討、ICT活用のさらなる推進により効率化を図る。 教員アンケート設問4の結果が大きく改善したことを踏まえ、今後も会議運営の工夫と案件整理を徹底し、機能的な組織運営を継続していく。加えて、教職員のスキル向上と業務効率化への意識改革を進め、持続可能な学校運営体制の確立を目指す。
エ 学校運営の健全化を進める。 【評価指標】 - 定期的な危機管理や個人情報管理に関する情報提供、注意喚起、研修等を行い、生徒や教員にとって安心して安全な学校運営を推進する。 - 危機管理や情報管理に関して、教員アンケート設問9～11で、それぞれ80%以上の肯定的回答を得る。 - 教員間の協力体制に関して、教員アンケート設問5～7で、それぞれ75%以上の肯定的回答を得る。	自己評価 【取組状況(Do)】 年度初めに危機管理事項及び個人情報に係わる管理事項を示し、職員会議等を通じて教員へ注意喚起を行った。 近年の異常気象や学校現場を取り巻く状況の変化を踏まえ、今年度新たに、熱中症対策ガイドライン、落雷事故防止ガイドライン、給食のアレルギー事故防止ガイドライン、給食における異物混入対応ガイドラインを策定した。 さらに、文部科学省及び大阪府教育委員会からの通知や指針を踏まえ、児童生徒撮影に関するガイドラインの策定に着手した。 【達成状況(Check)】 (○) 危機管理事項や個人情報に係わる管理事項については、年度初めの職員会議で丁寧に説明を行った。特に個人情報については、校外への持ち出しを必要最小限に抑え、持ち出し時の申請書提出を徹底した。さらには、1月及び2月の職員会議において、改めて個人情報の適切な取り扱いについて注意喚起を行った。 異常気象への対応としては、特に夏場の熱中症対策が必要となっており、学校医及び学校薬剤師の指導を受けながら、熱中症対策ガイドラインの策定を行った。さらに、生徒の健康管理の観点から、夏季における制服としてポロシャツ導入の検討を進めた。 奈良県の私立学校で発生した落雷事故を受け、本校においても事故を未然に防ぐことを目的として落雷事故防止ガイドラインを策定した。また、専門家の指導のもと、落雷感知器等の設置について検討を行った。 中等部において、給食時のアレルギー対応の不備及び異物混入事案を受け、給食管理業者及び栄養士と協議し、再発防止と事故

	発生時の対応を明確にするため、給食のアレルギー事故防止ガイドライン及び給食における異物混入対応ガイドラインを策定した。 また、全国にわたり、小中学校教員が、SNS 上で児童生徒の盗撮画像を共有していた事件を受け、文部科学省から「児童生徒性暴力等の防止等に関する教師の服務規律の確保の徹底について（通知）」が出され、さらには大阪府教育委員会から「教職員による児童生徒の撮影等に関する指針」が出された。これを受け、本校として、安全な撮影環境の整備を図ることを目的として、生徒の撮影等に関するガイドラインの策定を始めた。 教員アンケート設問5「教員間で相互理解を図るとともに、その信頼関係のもと教育活動を行っている。」では、1・2の肯定的回答が81.8%、同アンケート設問6「管理職と教員との間で相互理解を図るとともに、その信頼関係のもと教育活動を行っている。」では、1・2の肯定的回答が88.7%と昨年度を大きく上回り、同アンケート設問7「教員と事務職員との間で相互理解を図るとともに、その信頼関係のもと学校運営を行っている。」では、1・2の肯定的回答が93.2%と、いずれも目標を達成した。 【今後の改善方策(Action)】 教職員による児童生徒性暴力等については、社会的にも重大な課題である。本校としても、早急にガイドラインを策定し、教職員への周知徹底を図る。また、関西大学幼稚園への不審者侵入の事件を受け、本校においても初等部及び大学と連携しながら、防犯ガイドラインの策定及び計画的な訓練の実施に取り組む必要がある。 個人情報取り扱い、地震や台風、落雷事故などの自然災害対策、生徒の安全を守るための熱中症予防や体罰及びセクシュアルハラスメント防止対策、給食のアレルギー事故対応や異物混入対応、生徒の撮影や不審者対応など、学校が担う危機管理事項は多岐にわたる。これらの対応マニュアルやガイドラインについては、一度の周知にとどめることなく、定期的な確認や研修を行い、常に生徒が安心して学校生活を送れる環境づくりを進めていく。 教員の世代交代がさらに進む中、それぞれの経験の差はあるものの、それぞれの立場や意見を尊重し、それぞれの持ち味を発揮して、教員や事務職員が信頼関係を築きながら学校運営にあたることできるよう、日頃からコミュニケーションを大切にしていきたい。
--	---

3 アンケートの実施状況

生徒、保護者、教員へそれぞれのアンケート項目を設け、いずれも Google フォームを使用して実施した。生徒は各学年でアンケート回答のための時間を取って実施した。保護者へは一斉メール、教員へは教務システム（Siems）により、アンケートの回答依頼を行った。

（１） 生徒の評価

11 月に中等部と高等部について、同項目でアンケートを実施した。アンケート項目については、昨年度と同様 30 項目である。回答率は、2021 年度 88.2%、2022 年度 84.8%、2023 年度 81.6%、2024 年度 86.0%に対し、今年度は 80.8%（生徒数 783 名中 633 名提出）であった。

（２） 保護者の評価

11 月に中等部と高等部について、同項目でアンケートを実施した。アンケート項目については、昨年度と同様 29 項目である。回答率は、2021 年度 77.7%、2022 年度 69.1%、2023 年度 39.6%、2024 年度 74.8%に対し、今年度は 76.2%（全 783 名中 597 名提出）であった。

（３） 教員の評価

11 月に中等部と高等部の教諭、常勤講師、特別契約教諭、特任外国語講師に対して実施した。アンケート項目については、昨年度と同様 33 項目である。回答率は、2021 年度 66.0%、2022 年度 80.8%、2023 年度 78.1%、2024 年度 80.7%に対し、今年度は 80.0%（全 55 名中 44 名提出）であった。

4 アンケート結果の分析

アンケートについては、「そう思う」…1、「どちらかと言えばそう思う」…2、「どちらかと言えばそう思わない」…3、「そう思わない」…4 の回答について結果を集約した。

（１） 生徒アンケートについて

設問1「充実した学校生活を送っていると感じていますか。」では、1・2の肯定的回答が、中等部で 93.1%、高等部で 93.9%であり、設問2「本校に入学して良かったと思いますか。」では、同様に中等部で 91.1%、高等部で 85.1%となっており、概ね多くの生徒が本校での教育活動に満足していることがわかる。

設問5「事故、事件、災害が発生したとき、どのように行動すればよいのか、指示を受けていますか。」では、1・2の肯定的回答が、中等部で 2024 年度 81.7%、今年度 79.9%、高等部で 2024 年度 89.2%、今年度 89.1%となっており、少し下回る結果となった。校内で危機管理に関する新たな対応マニュアルやガイドラインを策定し、教職員間では周知しているものの、生徒の意識にはつながっていないことがわかる。

昨年度に引き続き、今年度も各定期考査終了後にフォローアップ補習を実施したことで、設問16「習熟が遅れた場合、補習授業や個人指導で適切なフォローアップをしてもらえる仕組みがあると感じていますか。」では、1・2の肯定的回答が、中等部で 2023 年度 64.8%、今年度 80.6%、高等部で 2023 年度 70.1%、今年度 79.0%と、いずれも一昨年度を大きく上回る結果となった。しかし、昨年度の中等部 81.7%、高等部 82.9%から少し下回っていることから、補習の目的や意義を改めて共有し、その効果を実感できるような内容へと改善を図る必要がある。

設問6「先生は学校生活での色々な問題に対して、素早く適切な対応をしていると思います

か。」では、1・2の肯定的回答が、中等部で2024年度68.6%、今年度72.4%、高等部で2024年度84.6%、今年度76.9%であること、同様に、設問22「先生とのコミュニケーションが十分にとれ、先生の指導の意図を理解していますか。」では、中等部で2024年度74.2%、今年度81.0%、高等部で2024年度87.3%、今年度78.1%であること、設問29「悩みが生じたときに、教員、学校カウンセラーに相談ができる体制ができていると思いますか。」では、中等部で2024年度61.8%、今年度64.5%、高等部で2024年度82.4%、今年度75.7%であることから、中等部ではこれら3つの項目で、昨年度より肯定的回答が上昇しており、教員と生徒との日常的なコミュニケーションの積み重ねが、生徒の安心感や満足度の向上につながっていると考えられる。一方、高等部ではすべての項目で肯定的回答が昨年度より減少している。数値はいずれも80%前後を維持しており、教員の対応力や支援体制そのものが後退したとは言い切れないものの、進路選択への不安の高まりや、教員に求める支援や教育の質がより高度化している可能性がある。数値の減少については真摯に受け止め、今後はより丁寧なコミュニケーションの確保や、日常的な関係づくり、相談体制などの一層の充実を図っていく必要がある。

(2) 保護者アンケートについて

全設問の29項目中、1・2の肯定的回答が中等部、高等部ともに昨年度よりも上回った項目が22項目、中等部、高等部のいずれかが昨年よりも上回った項目が6項目あり、全体として保護者満足度は向上傾向にあることがうかがえる。その中でも特筆すべき設問について、以下の通り分析する。

設問1「お子様は、充実した学校生活を送っていると思われますか。」では、1・2の肯定的回答が、中等部で2023年度89.3%、2024年度89.4%、今年度92.9%、高等部で2023年度91.1%、2024年度92.8%、今年度94.3%であり、いずれも2年連続で肯定的回答が増加した。同様に、設問2「保護者として、本校に入学させて良かったと思われますか。」では、中等部で2023年度87.5%、2024年度89.8%、今年度90.4%、高等部で2023年度91.8%、2024年度94.0%、今年度91.8%と、この設問についても横ばいもしくは上昇傾向にある。この結果により、この3年間で保護者の満足度は向上しているものと考えられる。

設問4「教員間で相互理解を図り、連携して教育活動を行っていると思われますか。」では、1・2の肯定的回答が、中等部で2024年度73.2%、今年度82.3%、高等部で2024年度79.4%、今年度85.1%であり、同様に、設問16「学校からの連絡や懇談は緊密に行われていると思われますか。」では、中等部で2024年度71.7%、今年度83.7%、高等部で2024年度77.5%、今年度87.3%であり、設問21「学校は、生徒の学校生活や家庭生活について、保護者との懇談や連絡を密に行い、相互理解を図っていると思われますか。」では、中等部で2024年度69.4%、今年度80.2%、高等部で2024年度74.4%、今年度85.4%と、いずれも昨年度を大きく上回っている。このことから、中等部、高等部ともに、教員間の連携体制や、学校と保護者との情報共有による相互理解が向上しており、学校運営に対する保護者の信頼感につながっていると考えられる。

設問15「習熟が遅れた生徒へのフォローアップのために補習授業や個人指導の取組が行われていると思われますか。」では、1・2の肯定的回答が、中等部で2023年度51.2%、2024年度68.6%、今年度76.3%、高等部で2023年度58.2%、2024年度67.8%、今年度81.6%と、昨

年度から実施したフォローアップ補習実施の認知がさらに高まっていることがわかる。一方で、補習や個別指導を実施するだけでなく、生徒一人ひとりに確実な学力の定着を図ることが重要であることから、今後は指導内容や方法を検証し、より効果を実感できる取り組みへと改善していく必要がある。

昨年度課題であった ICT の活用については、設問 14「タブレット端末や PC など充実した ICT 環境を効果的に活用する授業づくりに取り組んでいると思われますか。」では、1・2の肯定的回答が、中等部で 2024 年度 72.0%、今年度 77.0%、高等部で 2024 年度 89.1%、今年度 90.8%と、いずれも昨年度を上回る結果となった。行事や授業における生成 AI の利活用を含め、ICT を活用した教育活動について、保護者の理解や認知が進んだことがうかがえる。

(3) 教員アンケートについて

一昨年度から昨年度にかけては、全 33 項目中 27 項目で 1・2 の肯定的回答が増加した。さらに、昨年度から今年度にかけても 21 項目で肯定的回答が増加している。これらの結果から、この 3 年間で教員の教育活動に対する満足度は着実に向上していることがうかがえる。

特に、設問 4「職員会議や学年会議、教科会議などが効率よく機能的に運営されている。」では、1・2の肯定的回答が 2024 年度の 73.9%から今年度 93.2%、同様に、設問 6「管理職と教員との間で相互理解を図るとともに、その信頼関係のもと教育活動を行っている。」では、2024 年度の 78.3%から今年度 88.7%、設問 8「ホームページや学年通信等を利用して、本校の学校生活に関するきめ細かい情報提供を行っている。」では、2024 年度の 84.7%から今年度 90.9%、設問 13「学力向上のための組織的な取組を行っている。」では、2024 年度の 65.2%から今年度 75.0%、設問 15「主体的・対話的で深い学びを意識し、生徒が思考力を高めるための授業づくりに取り組んでいる。」では、2024 年度の 82.6%から今年度 88.6%、設問 20「生徒に学校や社会のルールを遵守させ、生徒としてのマナーやモラルを向上させる取組を行っている。」では、2024 年度の 71.7%から今年度 84.0%、設問 30「初中高間での授業見学や、初中合同または、初中高合同の行事を行い、初中高連携を図っている。」では、2024 年度の 76.1%から今年度 81.8%、設問 32「本校は、教員の資質向上及び指導力向上のための校内外の研修体制が充実している。」では、2024 年度の 67.4%から今年度 81.9%、設問 33「授業づくり、国際理解教育、探究学習、人権教育、生徒指導などの教育活動を充実させるための研修が計画的に行われている。」では、2024 年度の 78.2%から今年度 88.6%と、9 つの設問でそれぞれ大きく上回っている。このことから、今年度は校内組織の運営改善や管理職との信頼関係、研修体制の充実など、組織力向上に重点を置いた取り組みを進めることができたと考えられる。また、授業改善や学力向上への組織的な取り組み、生徒指導や情報発信、初中高連携についても評価が高まっており、学校全体として教育活動の質を高めることができたと考えられる。

一方で、設問 11「生徒や教職員の個人情報管理が適切に行われている。」では、1・2の肯定的回答が 2024 年度の 100%から今年度 81.8%、同様に、設問 14「生徒が人生の目標をもち、そこから大学や学部を選び、主体的に進路選択ができる指導体制が取られている。」では、2024 年度の 86.9%から今年度 79.6%、設問 19「学習状況の説明や家庭学習の把握のため、保護者との懇談や連絡を緊密に行っている。」では、2024 年度の 100%から今年度 88.6%と、いずれも前年度を下回る結果となった。これらの結果から、組織運営や授業改善が進展する一方で、

個人情報管理や保護者との連携といった学校運営の基盤部分、並びに進路指導体制について教員の受け止め方に差が生じている側面がうかがえる。これらの課題については、要因を丁寧に分析したうえで、共通理解を図り、次年度の改善に向けた具体的な取り組みへとつなげていく必要がある。

5 学校関係者評価委員会からの評価結果

(1) 自己評価の結果を受けて

ア 重点目標①：「確かな学力の定着と向上・進路の実現」について

・家庭学習の定着について、家庭学習の時間が増え、ここ数年において各学年の成績水準が最も高い結果になったとのことだが、フォローアップ補習後の成績については、中等部・高等部ともに下位の学年で向上が見られたものの、上位の学年の生徒は大きな変動がないという点が気になる。教科によって異なると思うが、特に数学等の教科については下位の学年からの積み重ねが大切であり、補習で少し努力したところで容易に取り戻せないのではと考える。先生方には引き続きフォローアップにご尽力いただき、生徒の学習意欲が最も高い1年次から、学年が上がっても継続して学習を積み重ねられるようご指導いただきたい。

・併設校として中大接続・高大接続プログラムが充実しており、中等部、高等部において実際に大学教員からゼミ指導を受けたり、学部授業を体験できることは大変魅力的である。

・キャリア教育に関しては、生徒には大学進学後、文理問わず将来どのような職業に就きたいかを見据え、自身のキャリアにつながるように大学を上手に活用いただきたいと考える。そのために、先生方には大学での学びやプログラムの魅力を生徒に向けてより一層アピールいただきたい。

・保護者としては学部で何を学んだかというより、卒業後の就職先を注視しているところもあると感じる。理系の場合は大学で何を学ぶかでその先が変わってくる可能性が高いが、文系は理系に比べると出口が柔軟だと考える。

・生徒が「結局出口は同じだからどの学部で学んでも一緒」と思わないよう、学校側には「どの学部で、どのような学びを深めることができるか」という観点で学部の魅せ方をより一層工夫されたい。

イ 重点目標②：「個性を伸ばす教育の実践」について

・高等部の卒業研究発表会予選会や本選会、ポスター発表会、中等部の総合学習発表会において発表者と聞き手が学年を超えて学びを共有し、質の高い発表会を創り上げた点が非常に素晴らしいと感じた。上位学年の生徒が下位学年の生徒に発表を見せることは、発表者が緊張感を持ちながら経験値を高められるだけでなく、聞き手も先を見通して学びをつなげられることから非常に良い取り組みであると考え。とりわけ、人前での発表は社会に出てから必要な力であり、学校生活において舞台に立って発表する機会を作ることは重要である。発表に向けてグループで議論し、発表内容をまとめ、発信するという経験を生徒たちが重ねることで、論理的な話の組み立て方や伝え方等を身につけられるよう、先生方が学年毎に整理しながら工夫していることは高く評価できる。

・生成AIの利活用について、今年度実際に生成AIを利活用した研究授業も実践され、今後は

中等部の考える科の授業に取り入れたり、高等部では論文作成のパートナーとして利活用しながら研究を深めていくことも検討しているとのことだが、生徒たちには若い時にしっかりと頭を使って考える経験も重ねてほしいと考える。生成 AI は実社会での利用においては生産性が高く、効率的であるものの生徒たちには実社会で困ったときに解決できる力を自身で身につける必要があるため、学習面での使い方について丁寧に議論し、工夫いただきたい。

・今年度初めて高槻市内の公立中学校を対象に探究学習発表会が行われたが、本校高等部の2年生の生徒が模範生として発表し、公立中学校の生徒たちの刺激になったと聞いている。今後も公立と私立の垣根を越えて生徒同士が活発に交流できる場を維持されたい。

ウ 重点目標③：「教職員の自己研鑽及び学校運営の健全化」について

・先生方の教員研修も充実しており、超過勤務についても改善されていることは評価できる。教員の超過勤務は授業の質に違いなく影響が出てくると考えられるため、今後も引き続き削減にむけて維持いただきたい。

・授業力向上は教師にとって必須であり、教員の資質向上に向けて多岐に渡る研修を幅広く取り入れていることは評価できる。また、昨年度この場で評価委員から助言があった各教員からの研修フィードバックを今年度の職員会議で早速実践されたとのことだが、有効な取り組みだと考えるので、次年度以降も継続して実施いただきたい。

・公立中学校でも同じことがいえるが、業務に偏りがあるため、一部の教員に超過勤務時間が集中してしまうことがあるのではないかと。超過勤務抑制等を目的に文科省が2025年に策定した「公立学校教員の働き方改革に関する新指針」では、教員が担うべき業務と、それ以外の業務を整理する考え方が示されており、その中でまず夏休みの校区内パトロールを実施しなくなった。また、今年度からはプリントの印刷や電話対応専門の業務支援員を雇用することで教員の業務が円滑に回るようになった。

(2) アンケート結果について

- ・満足度が下がっている項目は僅かで幅も小さい一方、上がっている項目は大幅に上昇している。生徒、保護者、教員それぞれのアンケートを見ても全体として上昇傾向にあることは評価できる。数年前は顕著に低い項目もあったが、改善傾向にあるのが結果を見るとよくわかる。
- ・微小な変動よりも中長期的な観点で全体的に改善傾向にあるか否かが重要だと考える。
- ・教員と保護者、教員と生徒との関係性を日頃から良好に保っていくことが鍵であることから、引き続き丁寧なコミュニケーションを心掛け、生徒や保護者が安心して相談できる体制をより一層図っていただきたい。

[学校関係者評価委員会委員名簿]

氏 名	所属及び役職
丹 家 敬	高槻市立中学校校長会 会長、高槻市立阿武山中学校 校長
橋 本 欣 也	関西大学中等部・高等部教育後援会 会長
城 下 英 行	関西大学社会安全学部 准教授 ※評価結果取りまとめ執筆者
松 村 湖 生	関西大学中等部・高等部 校長

6 校長の意見書

関西大学中部部・高等部

校長 松 村 湖 生

本校が推進している特色ある教育活動について概ね高い評価をいただいたことは、大変喜ばしいことである。特に、探究学習における各種発表会などを通して生徒が学年を越えて学びを共有する取り組みや、大学との接続を活かしたプログラムについて、その教育的意義を評価していただいたことは、併設校として一定の成果を上げているものと受け止めている。また、生徒、保護者、教員アンケートにおいて、全体として満足度が上昇していることに加え、数年前と比較して着実に課題が改善できていることについて評価をいただいたことは、本校の教育活動が継続的な取り組みの中で前進していることの表れであると考え。さらに、本校が推進している高槻市との地域連携についても、高槻市側からも有意義な取り組みとして評価をいただいたことは、地域とともに教育を進めていく上で大変心強く受け止めている。

一方で、いくつかの課題についても重要なご指摘をいただいた。まず、フォローアップ補習については、1年生では一定の成果が見られるものの、3年生では大きな変化が見られない。この点については、補習の目的や意義を改めて確認するとともに、対象生徒へのアンケート等を通して実態を把握し、早期段階でのつまづきを支援する取り組みをより充実させていく必要があると考える。また、学習目標の設定や学習計画の支援を行うことで、さらに効果的な取り組みへと発展させていきたい。フォローアップ補習は、教員の個別的な対応にとどめるのではなく、学校全体としての組織的な取り組みとして位置づけ、保護者の理解を得ながら継続的に推進していくことが重要であると認識している。

キャリア教育に関しては、生徒が大学での学びの内容を理解した上で進路を選択できるよう、より一層の工夫が必要である。今後は、各キャンパスへの見学や説明会の充実を図るとともに、卒業生の体験談を聞く機会なども積極的に取り入れ、生徒が自身の将来像を具体的に思い描くことができる取り組みを進めていく。また、高等部段階に限らず、中部部段階から中大接続プログラム等を通して大学での学びに触れる機会を増やし、早い段階から生徒が自らの将来を見据え、主体的に進路を考える姿勢を育成していきたい。また、国際理解教育や探究学習、各授業や行事など日々の教育活動を通して、生徒が自らの将来像を描き、その実現のために必要な力を育んでいけるよう教育活動を進めていく。

生成 AI の利活用については、本校として新たな教育ツールとして積極的に取り入れていく一方で、生徒の思考力育成に悪い影響が生じないよう十分な配慮が必要であると考え。そこで、教育活動全体の中での位置づけを整理し、探究学習や各教科での研究と実践を進めながら、教育的効果を踏まえた適切な活用方法を検討していきたいと考えている。

教員の働き方改革や業務の適正化については引き続き重要な課題である。業務の偏りや一部の教員への負担については、これまでも改善に努めてきたが、今後は各教員との丁寧な面談を重ねながら業務の平準化や役割分担の見直しを一層進めていく必要がある。併せて、教員自身の資質向上と業務の効率化を推進し、超過勤務の削減につなげていきたい。

教員と生徒、教員と保護者との良好な関係づくりは、学校運営の基盤となる重要な要素であり、本校の教育活動を支える土台である。生徒や保護者が安心して相談できる環境を整えるためには、教員一人ひとりが生徒や家庭の思いに丁寧に寄り添い、日常的なコミュニケーションを積み重ねることが不可欠である。今後も教員研修を通して指導力と対応力の向上を図り、信頼関係の構築に努めていきたい。

今後も、より良い社会を築くための「考動力」を有する人材育成の実現に向けて、教育活動の質を一層高めながら、教職員が一体となり、不断の努力と改善を重ねながら、持続的な学校づくりに取り組んでいきたい。

7 アンケート結果

2025 年度 関西大学中等部・高等部 自己点検・評価アンケート結果（生徒用）

2025 年度 関西大学中等部・高等部 自己点検・評価アンケート結果（保護者用）

2025 年度 関西大学中等部・高等部 自己点検・評価アンケート結果（教員用）

2025年度 関西大学中部・ 高等部 自己点検・ 評価アンケート 結果（ 生徒用）

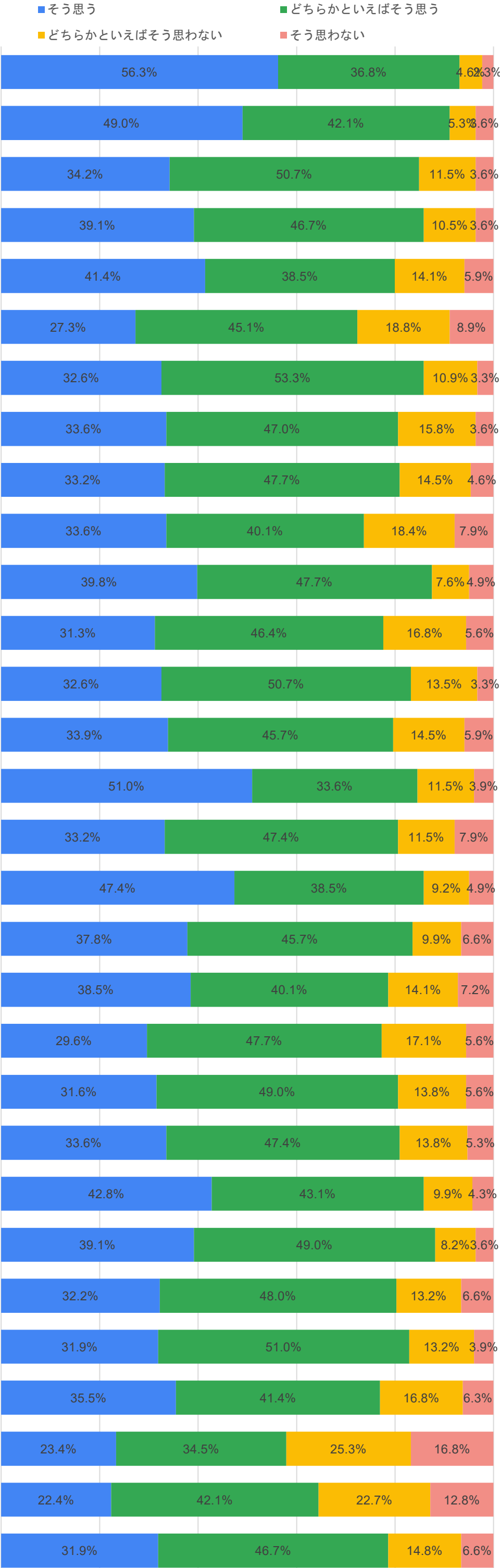
[1] そう 思う [2] どちら かと 言えば そう 思う [3] どちら かと 言えば そう 思わ ない [4] そう 思わ ない

NO	設問	中部部全体				高等部全体			
		1	2	3	4	1	2	3	4
1	充実した学校生活を送っていると感じていますか。	56.3%	36.8%	4.6%	2.3%	49.2%	44.7%	4.9%	1.2%
2	本校に入学して良かったと思いますか。	49.0%	42.1%	5.3%	3.6%	38.3%	46.8%	11.2%	3.6%
3	本校の教育方針を理解していますか。	34.2%	50.7%	11.5%	3.6%	28.0%	53.2%	12.2%	6.7%
4	校内だけでなく、校外においても、関西大学中部部・高等部生として、自覚をもって行動していますか。	39.1%	46.7%	10.5%	3.6%	41.6%	46.2%	8.8%	3.3%
5	事故、事件、災害が発生したとき、どのように行動すればよいのか、指示を受けていますか。	41.4%	38.5%	14.1%	5.9%	38.9%	50.2%	8.2%	2.7%
6	先生は学校生活での色々な問題に対して、素早く適切な対応をしていると思いますか。	27.3%	45.1%	18.8%	8.9%	25.5%	51.4%	15.5%	7.6%
7	授業や行事など、様々な教育活動を通じて、情報に関する倫理やその保護について理解していますか。	32.6%	53.3%	10.9%	3.3%	30.4%	54.1%	12.2%	3.3%
8	様々な教育活動において、地域との連携を行い、社会に開かれた教育活動を行っていると思いますか。	33.6%	47.0%	15.8%	3.6%	28.6%	48.6%	16.7%	6.1%
9	学力向上のために組織的な取組を行っていると思いますか。	33.2%	47.7%	14.5%	4.6%	32.2%	52.9%	9.7%	5.2%
10	課題や提出物にまじめに取り組み、家庭学習習慣は身につけていると思いますか。	33.6%	40.1%	18.4%	7.9%	34.0%	46.8%	16.1%	3.0%
11	人生の目標をもち、そこから大学や学部を選び、主体的に進路選択ができる仕組みがあると思いますか。	39.8%	47.7%	7.6%	4.9%	40.7%	47.7%	8.8%	2.7%
12	関西大学やその他の大学に関する必要な情報があり、大学進学に対しての意欲が高まる仕組みがあると思いますか。	31.3%	46.4%	16.8%	5.6%	44.1%	46.8%	7.3%	1.8%
13	ものごとを論理的に考えたり、批判的に考えたりするなど、思考力が高まる仕組みがあると思いますか。	32.6%	50.7%	13.5%	3.3%	35.6%	52.9%	9.1%	2.4%
14	定期考査や模擬試験後の面談等によって、自らの学力分析ができ、その後の学習に役立っていると思いますか。	33.9%	45.7%	14.5%	5.9%	36.2%	51.7%	8.8%	3.3%
15	タブレット端末やPCなど充実したICT環境を効果的に活用する場面があると思いますか。	51.0%	33.6%	11.5%	3.9%	48.9%	41.0%	7.0%	3.0%
16	習熟が遅れた場合、補習授業や個人指導で適切なフォローアップをしてもらえる仕組みがあると感じていますか。	33.2%	47.4%	11.5%	7.9%	33.4%	45.6%	15.5%	5.5%
17	自分の学習状況を保護者も把握していると思いますか。	47.4%	38.5%	9.2%	4.9%	46.2%	42.6%	9.4%	1.8%
18	生徒としてのマナーやモラルが向上する指導や取組が行われていると思いますか。	37.8%	45.7%	9.9%	6.6%	36.5%	48.3%	10.3%	4.9%
19	いじめを許さない指導が積極的に行われていると思いますか。	38.5%	40.1%	14.1%	7.2%	42.6%	40.7%	12.2%	4.6%
20	授業や学級活動、行事などを通して、地域・社会の現状を知り、自主的に社会貢献をする機会があると思いますか。	29.6%	47.7%	17.1%	5.6%	33.4%	47.1%	15.8%	3.6%
21	他者への貢献や人権意識を高める指導が日常的に行われていると思いますか。	31.6%	49.0%	13.8%	5.6%	34.0%	51.1%	11.2%	3.6%
22	先生とのコミュニケーションが十分にとれ、先生の指導の意図を理解していますか。	33.6%	47.4%	13.8%	5.3%	31.6%	46.5%	17.9%	4.0%
23	基本的生活習慣や健康な身体づくり、基礎体力づくりの仕方を学びましたか。	42.8%	43.1%	9.9%	4.3%	33.7%	49.8%	14.0%	2.4%
24	各学校行事の意義や目的を理解し、主体的に活動していると思いますか。	39.1%	49.0%	8.2%	3.6%	39.2%	54.7%	4.3%	1.8%
25	国際理解教育プログラムを通じて、外国語を使う力と、異文化を理解する力が身についていると思いますか。	32.2%	48.0%	13.2%	6.6%	36.5%	46.8%	13.1%	3.6%
26	プロジェクトの授業(考える科や総合的な学習の時間を含む)を通じて、課題設定、情報収集、課題解決、表現する力が身についていると思いますか。	31.9%	51.0%	13.2%	3.9%	42.6%	49.8%	7.3%	0.3%
27	高大、中大、中高の教育連携が積極的に行われていると思いますか。	35.5%	41.4%	16.8%	6.3%	34.0%	46.5%	16.1%	3.3%
28	初等部との教育連携があると思いますか。	23.4%	34.5%	25.3%	16.8%	8.8%	22.5%	35.0%	33.7%
29	悩みが生じたときに、教員、学校カウンセラーに相談ができる体制ができていると思いますか。	22.4%	42.1%	22.7%	12.8%	28.0%	47.7%	17.0%	7.3%
30	先生は新しい教材を取り入れたり、新しい情報を収集したりするなど、指導力の向上に努めようとしていると思いますか。	31.9%	46.7%	14.8%	6.6%	32.8%	51.4%	11.2%	4.6%

※ アンケート数値はそれぞれ小数第二位を四捨五入

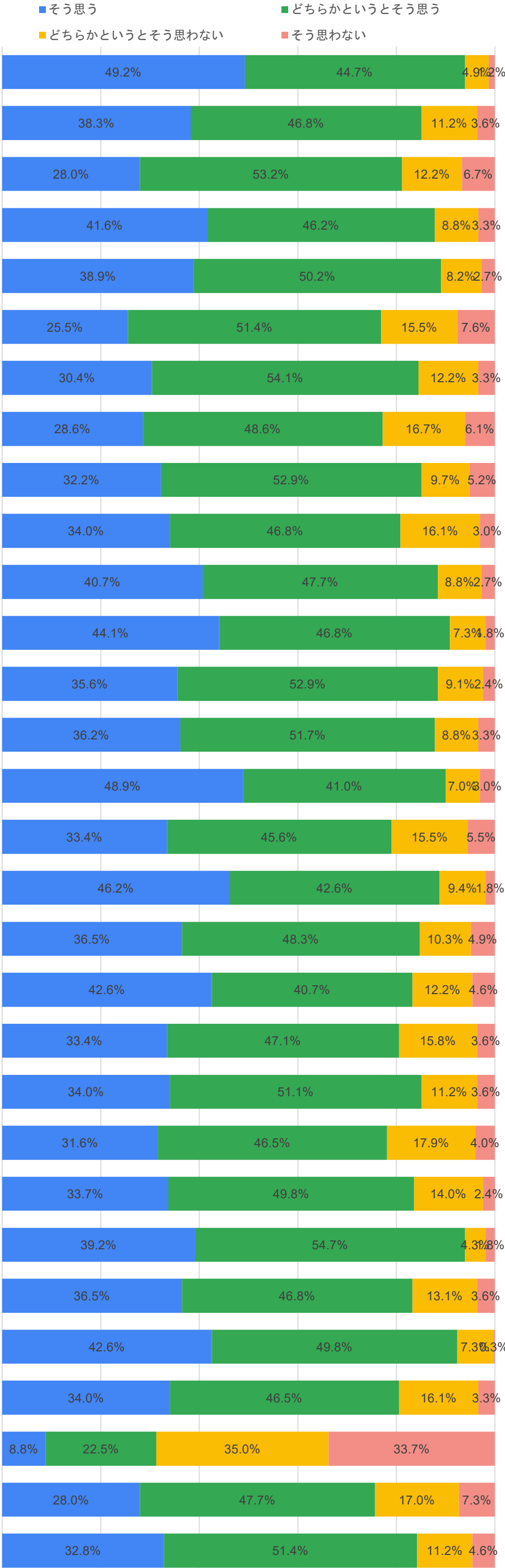
2025年度 関西大学中部・ 高等部 自己点検・ 評価アンケート 結果（生徒用・ 中部）

NO	設問
1	充実した学校生活を送っていると感じていますか。
2	本校に入学して良かったと思いますか。
3	本校の教育方針を理解していますか。
4	校内だけでなく、校外においても、関西大学中部・高等部生として、自覚をもって行動していますか。
5	事故、事件、災害が発生したとき、どのように行動すればよいのか、指示を受けていますか。
6	先生は学校生活での色々な問題に対して、素早く適切な対応をしていると思いますか。
7	授業や行事など、様々な教育活動を通じて、情報に関する倫理やその保護について理解していますか。
8	様々な教育活動において、地域との連携を行い、社会に開かれた教育活動を行っていると思いますか。
9	学力向上のために組織的な取組を行っていると思いますか。
10	課題や提出物にまじめに取り組み、家庭学習習慣は身につけていると思いますか。
11	人生の目標をもち、そこから大学や学部を選び、主体的に進路選択ができる仕組みがあると思いますか。
12	関西大学やその他の大学に関する必要な情報があり、大学進学に対しての意欲が高まる仕組みがあると思いますか。
13	ものごとを論理的に考えたり、批判的に考えたりするなど、思考力が高まる仕組みがあると思いますか。
14	定期考査や模擬試験後の面談等によって、自らの学力分析ができ、その後の学習に役立っていると思いますか。
15	タブレット端末やPCなど充実したICT環境を効果的に活用する場面があると思いますか。
16	習熟が遅れた場合、補習授業や個人指導で適切なフォローアップをしてもらえる仕組みがあると感じていますか。
17	自分の学習状況を保護者も把握していると思いますか。
18	生徒としてのマナーやモラルが向上する指導や取組が行われていると思いますか。
19	いじめを許さない指導が積極的に行われていると思いますか。
20	授業や学級活動、行事などを通して、地域・社会の現状を知り、自主的に社会貢献をする機会があると思いますか。
21	他者への貢献や人権意識を高める指導が日常的に行われていると思いますか。
22	先生とのコミュニケーションが十分にとれ、先生の指導の意図を理解していますか。
23	基本的生活習慣や健康な身体づくり、基礎体力づくりの仕方を学びましたか。
24	各学校行事の意義や目的を理解し、主体的に活動していると思いますか。
25	国際理解教育プログラムを通じて、外国語を使う力と、異文化を理解する力が身についていると思いますか。
26	プロジェクトの授業（考える科や総合的な学習の時間を含む）を通じて、課題設定、情報収集、課題解決、表現する力が身についていると思いますか。
27	高大、中大、中高の教育連携が積極的に行われていると思いますか。
28	初等部との教育連携があると思いますか。
29	悩みが生じたときに、教員、学校カウンセラーに相談ができる体制ができていると思いますか。
30	先生は新しい教材を取り入れたり、新しい情報を収集したりするなど、指導力の向上に努めようとしていると思いますか。



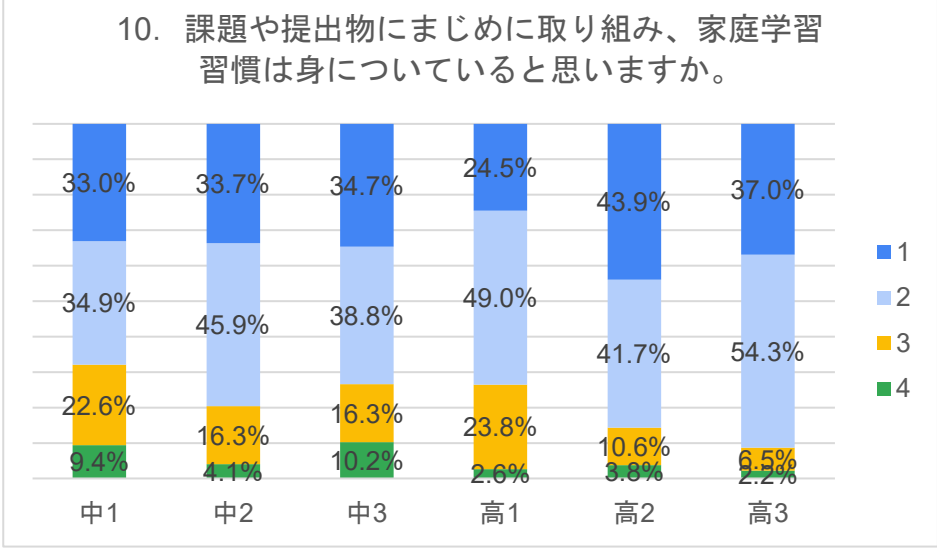
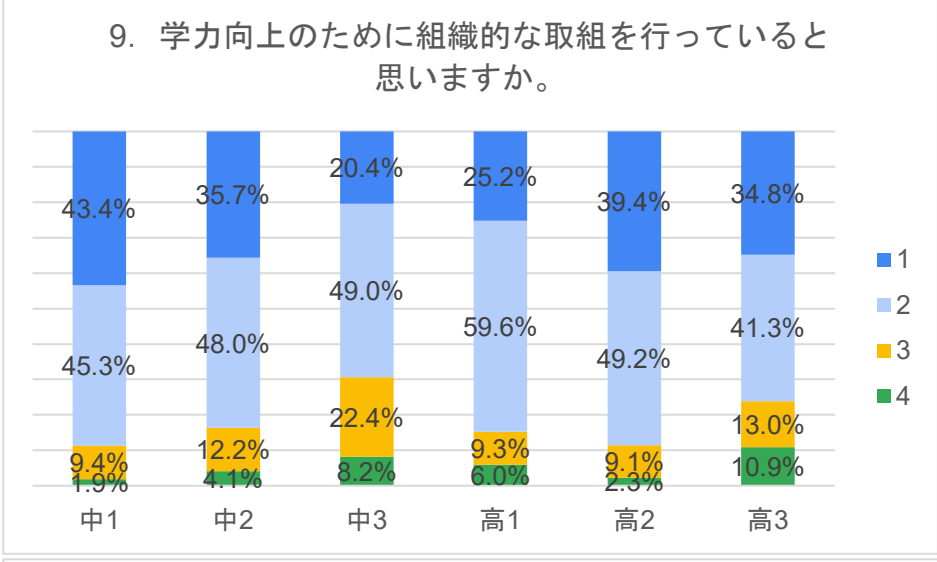
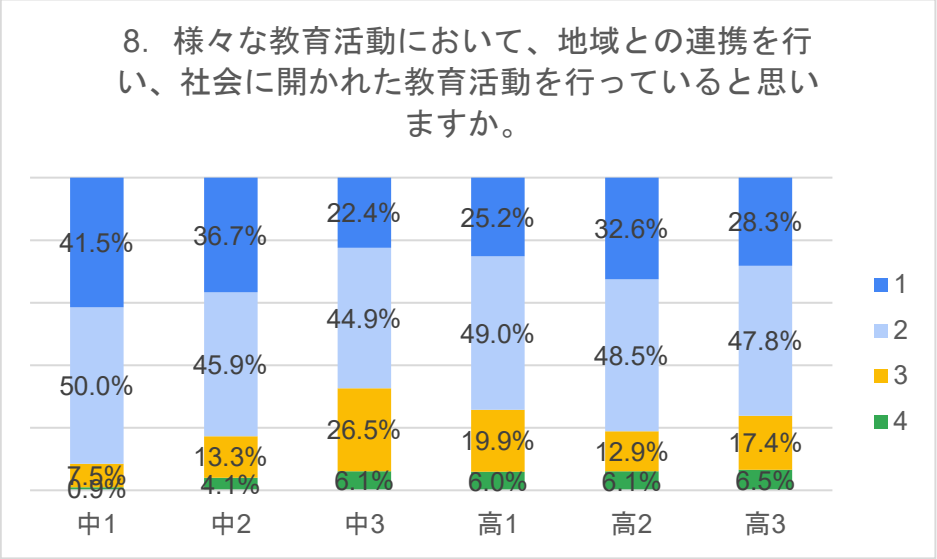
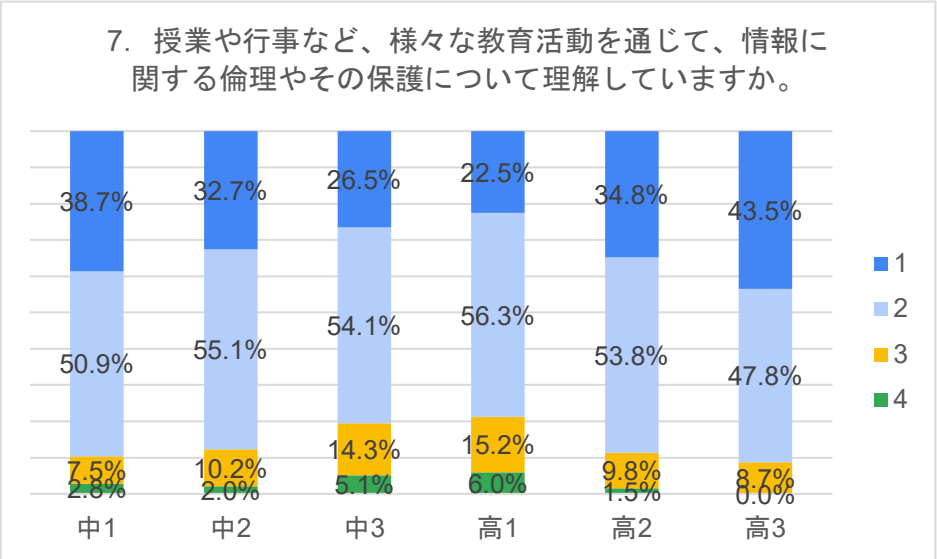
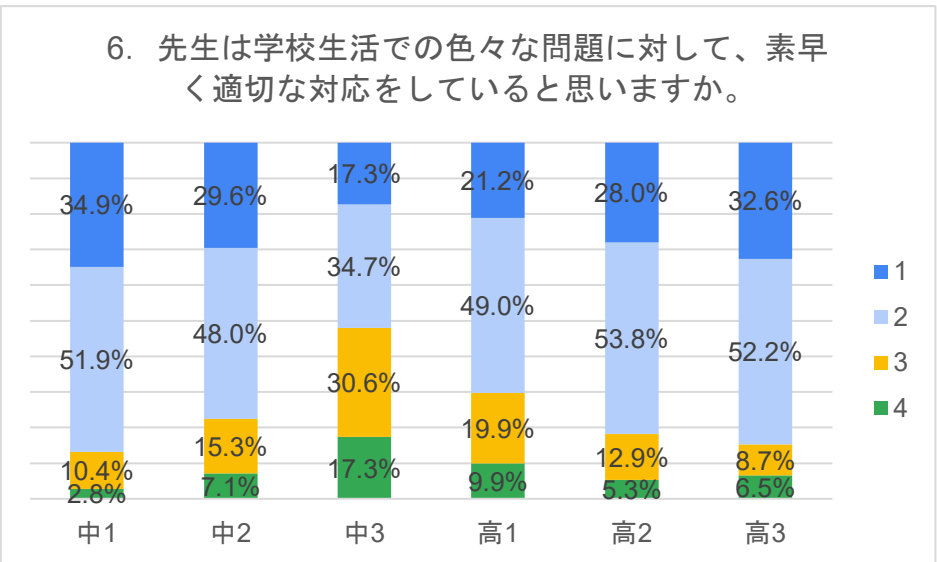
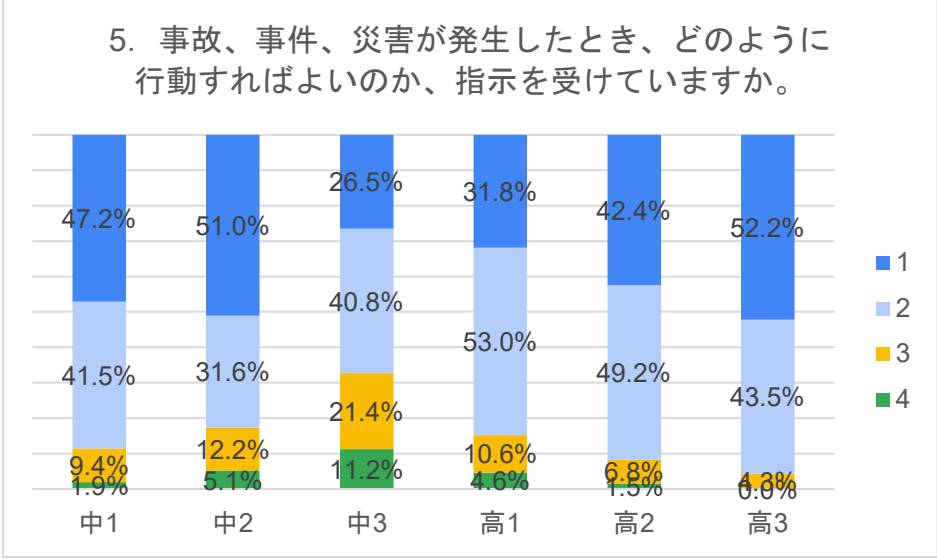
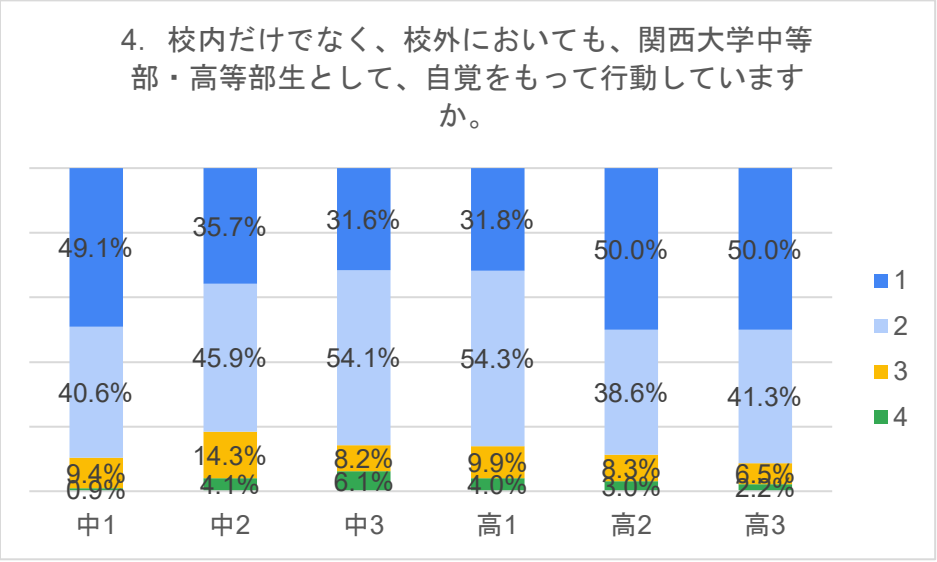
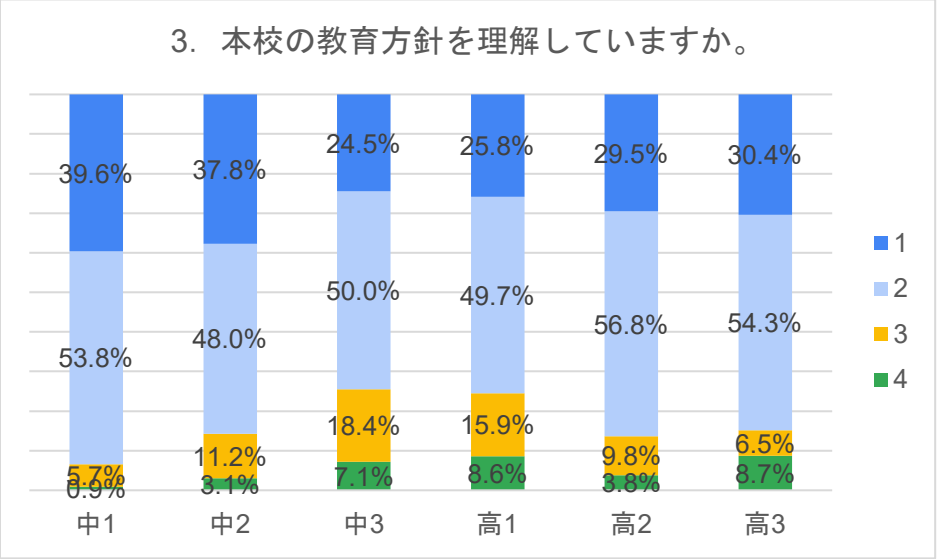
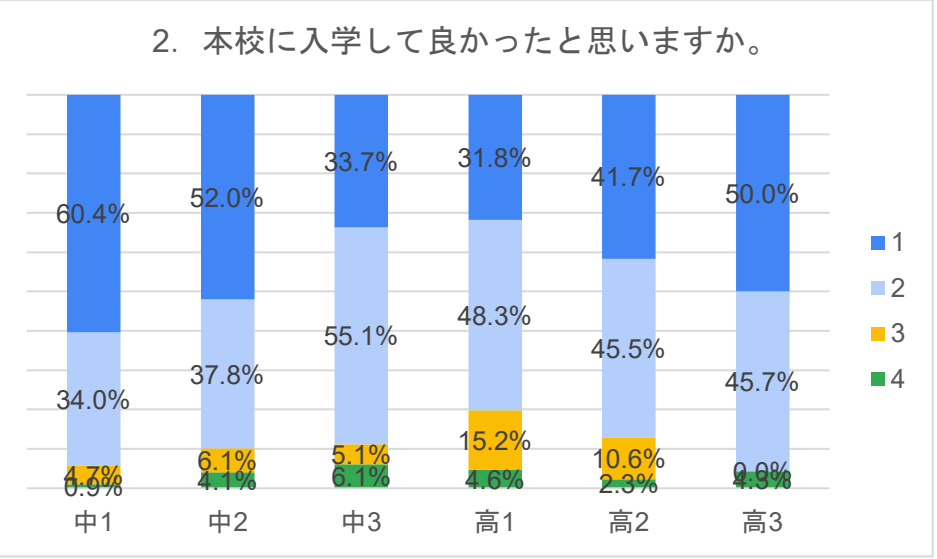
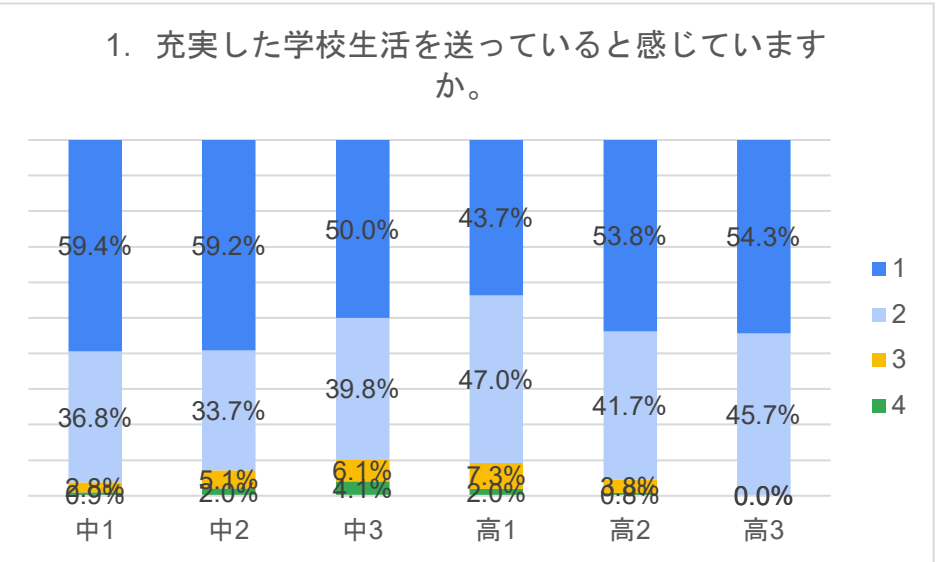
2025年度 関西大学中部・ 高等部 自己点検・ 評価アンケート 結果（生徒用・ 高等部）

NO	設問
1	充実した学校生活を送っていると感じていますか。
2	本校に入学して良かったと思いますか。
3	本校の教育方針を理解していますか。
4	校内だけでなく、校外においても、関西大学中部・高等部生として、自覚をもって行動していますか。
5	事故、事件、災害が発生したとき、どのように行動すればよいのか、指示を受けていますか。
6	先生は学校生活での色々な問題に対して、素早く適切な対応をしていると思いますか。
7	授業や行事など、様々な教育活動を通じて、情報に関する倫理やその保護について理解していますか。
8	様々な教育活動において、地域との連携を行い、社会に開かれた教育活動を行っていると思いますか。
9	学力向上のために組織的な取組を行っていると思いますか。
10	課題や提出物にまじめに取り組み、家庭学習習慣は身につけていると思いますか。
11	人生の目標をもち、そこから大学や学部を選び、主体的に進路選択ができる仕組みがあると思いますか。
12	関西大学やその他の大学に関する必要な情報があり、大学進学に対しての意欲が高まる仕組みがあると思いますか。
13	ものごとを論理的に考えたり、批判的に考えたりするなど、思考力が高まる仕組みがあると思いますか。
14	定期考査や模擬試験後の面談等によって、自らの学力分析ができ、その後の学習に役立っていると思いますか。
15	タブレット端末やPCなど充実したICT環境を効果的に活用する場面があると思いますか。
16	習熟が遅れた場合、補習授業や個人指導で適切なフォローアップをしてもらえる仕組みがあると感じていますか。
17	自分の学習状況を保護者も把握していると思いますか。
18	生徒としてのマナーやモラルが向上する指導や取組が行われていると思いますか。
19	いじめを許さない指導が積極的に行われていると思いますか。
20	授業や学級活動、行事などを通して、地域・社会の現状を知り、自主的に社会貢献をする機会があると思いますか。
21	他者への貢献や人権意識を高める指導が日常的に行われていると思いますか。
22	先生とのコミュニケーションが十分にとれ、先生の指導の意図を理解していますか。
23	基本的生活習慣や健康な身体づくり、基礎体力づくりの仕方を学びましたか。
24	各学校行事の意義や目的を理解し、主体的に活動していると思いますか。
25	国際理解教育プログラムを通じて、外国語を使う力と、異文化を理解する力が身につけていると思いますか。
26	プロジェクトの授業（考える科や総合的な学習の時間を含む）を通じて、課題設定、情報収集、課題解決、表現する力が身につけていると思いますか。
27	高大、中大、中高の教育連携が積極的に行われていると思いますか。
28	初等部との教育連携があると思いますか。
29	悩みが生じたときに、教員、学校カウンセラーに相談ができる体制ができていると思いますか。
30	先生は新しい教材を取り入れたり、新しい情報を収集したりするなど、指導力の向上に努めようとしていると思いますか。



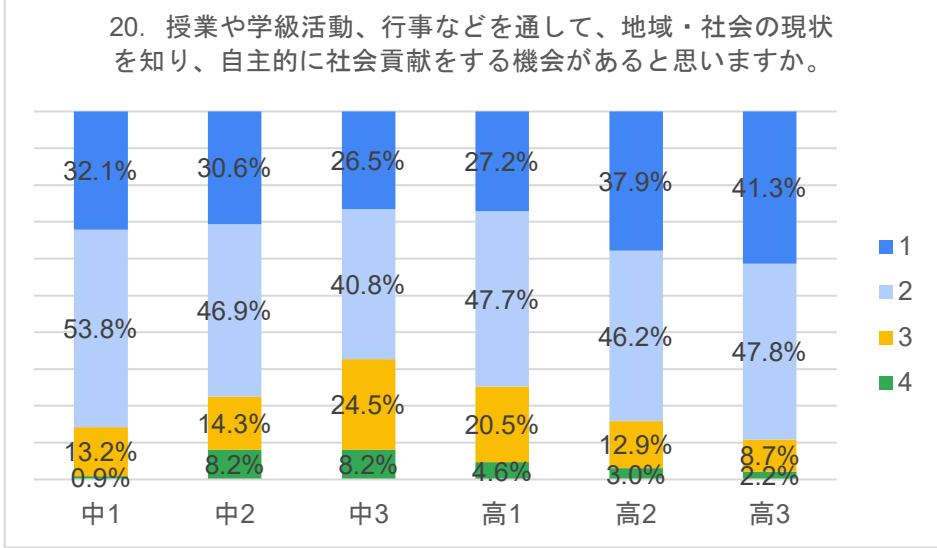
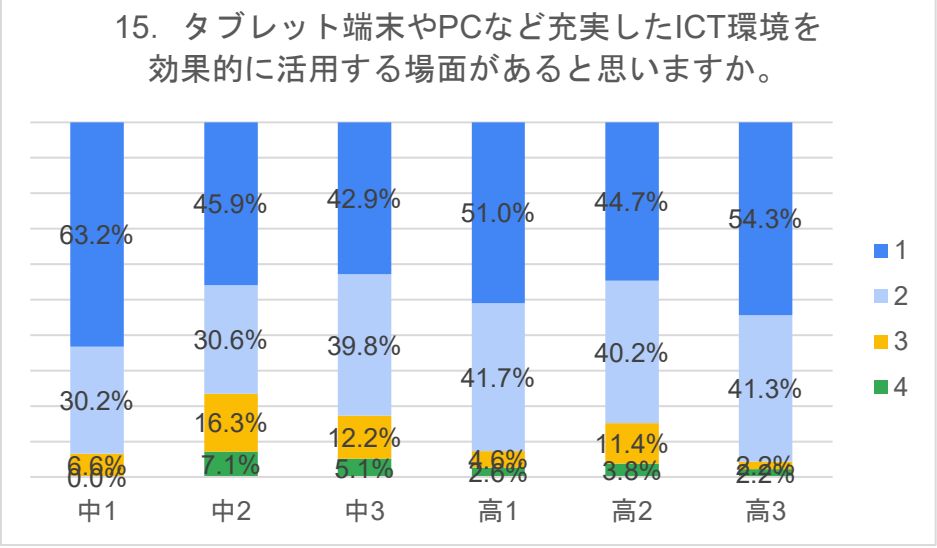
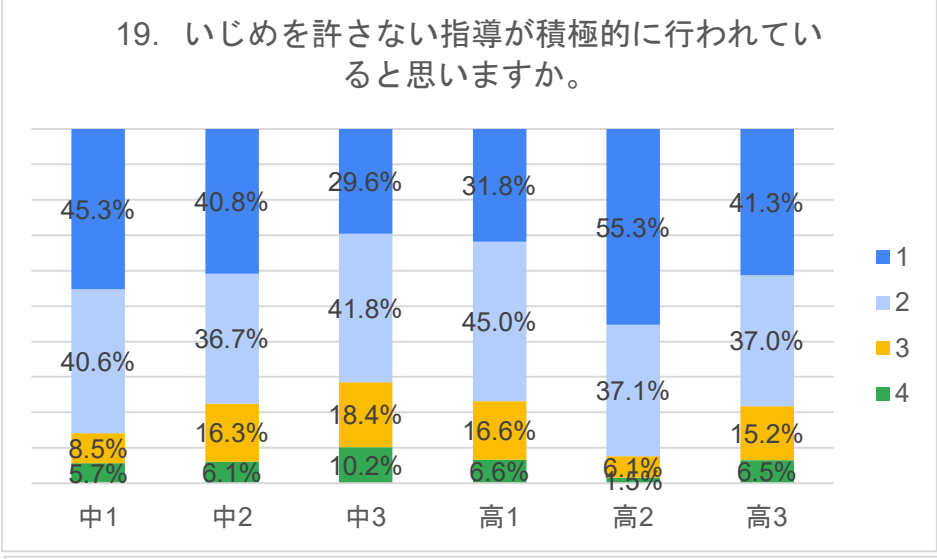
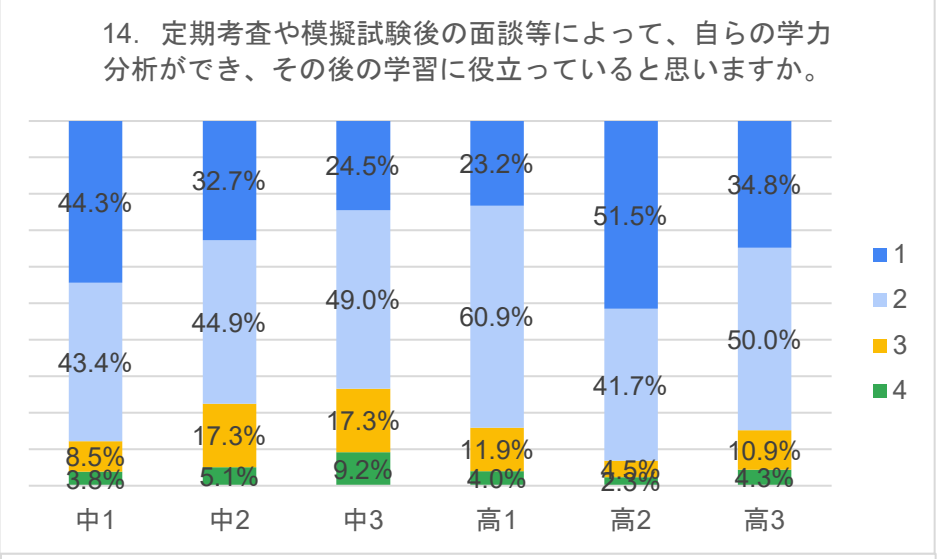
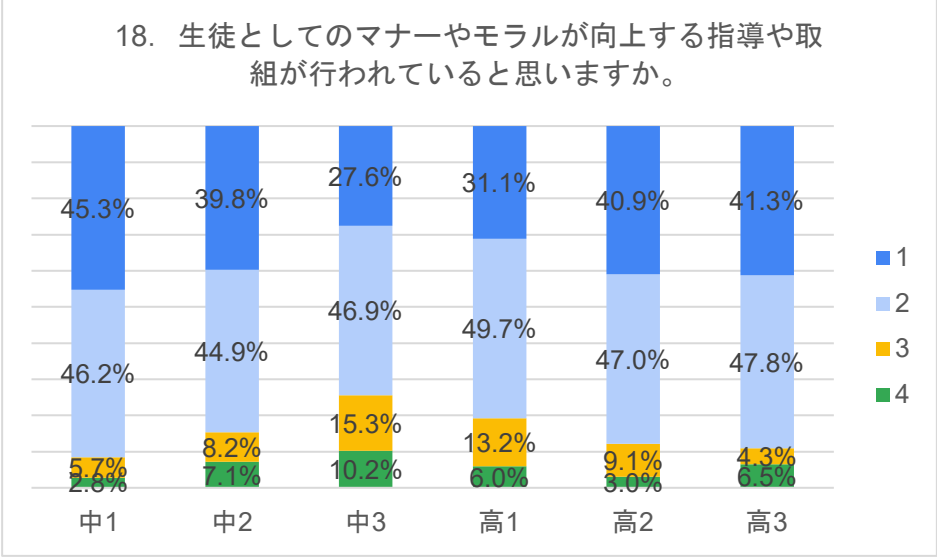
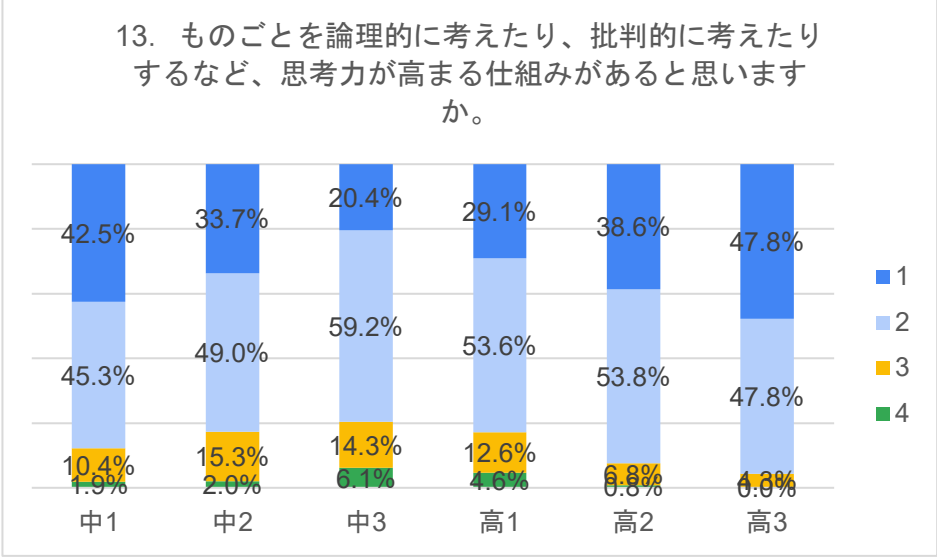
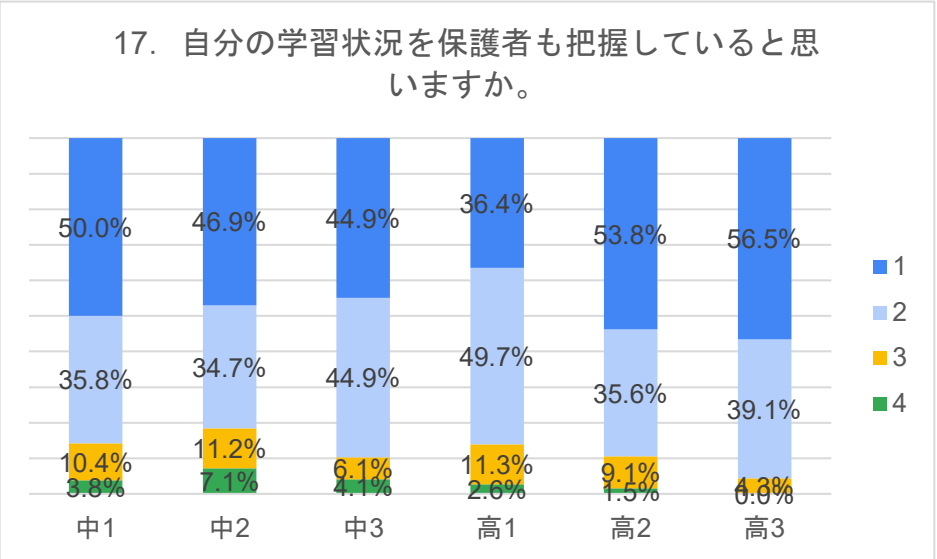
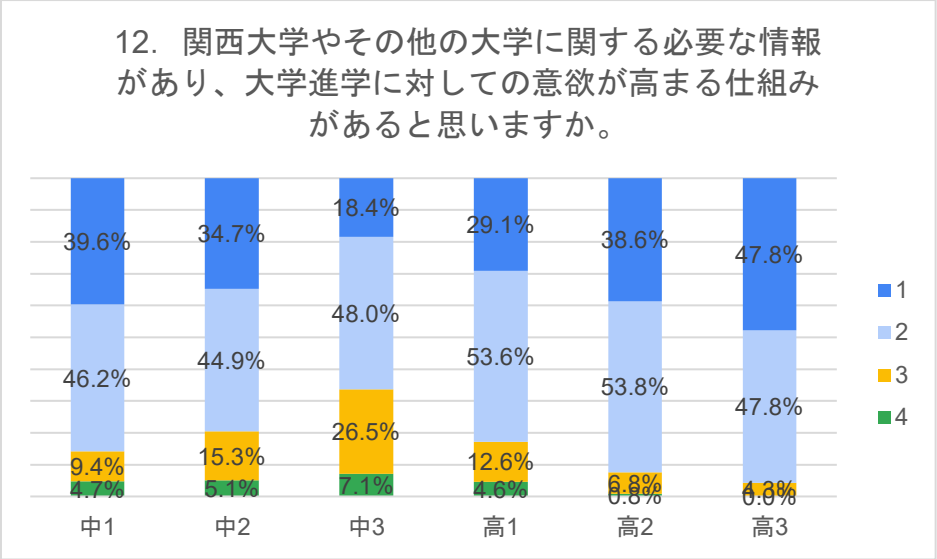
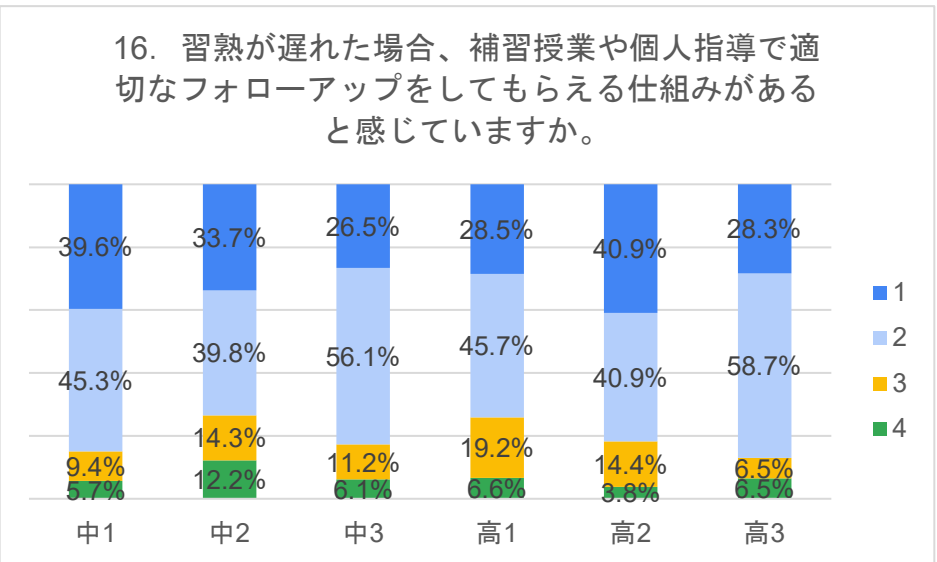
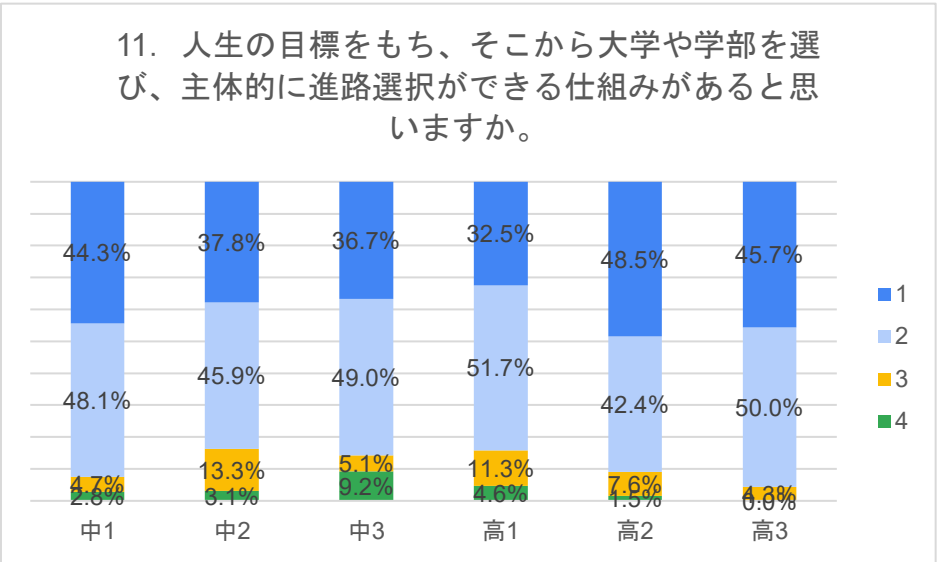
生徒集計

[1] そう思う [2] どちらかと言えばそう思う [3] どちらかと言えばそう思わない [4] そう思わない



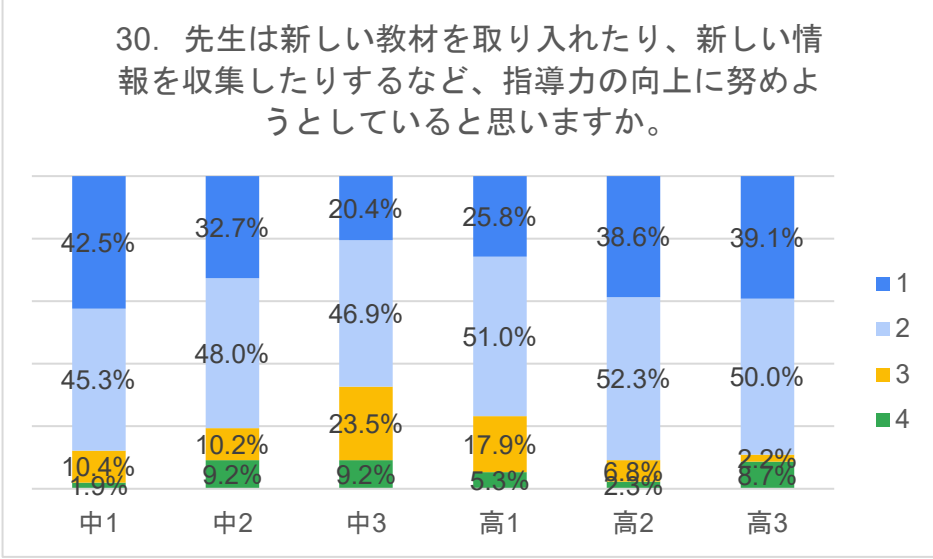
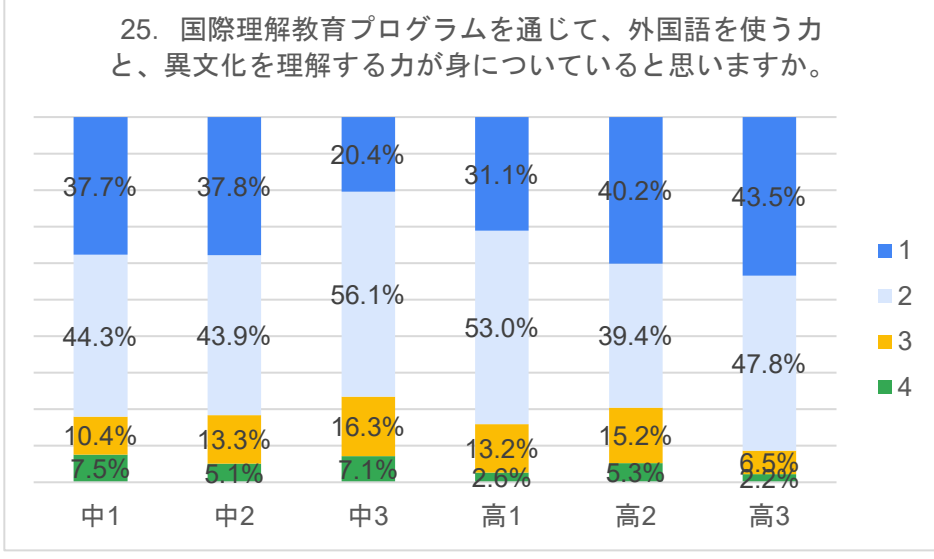
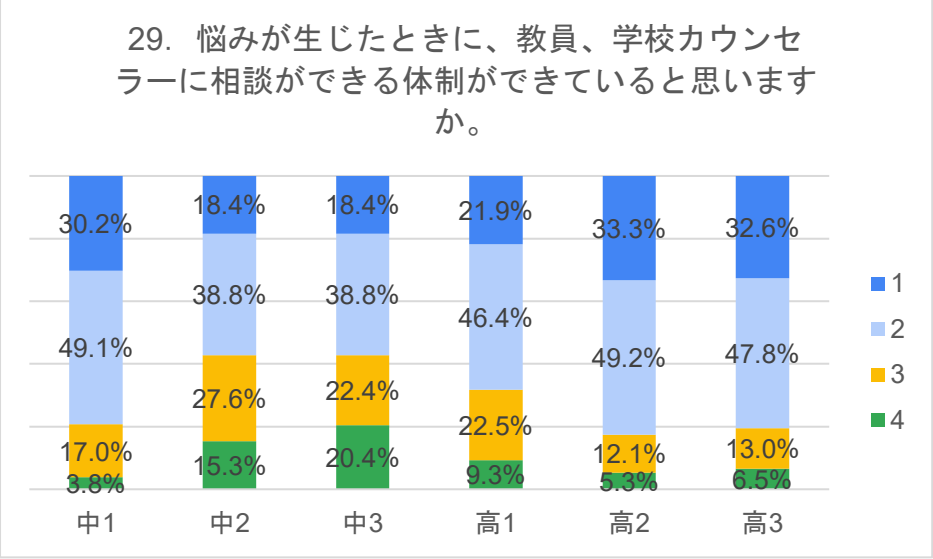
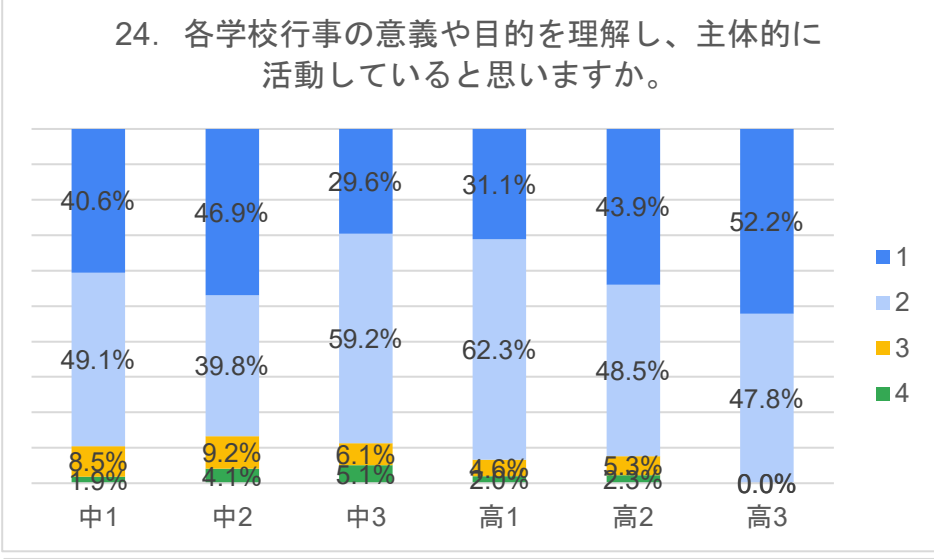
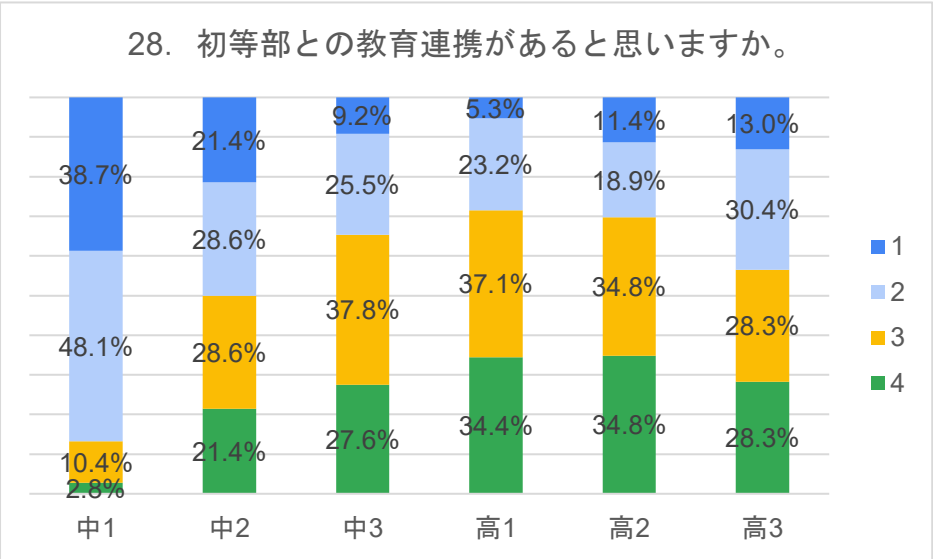
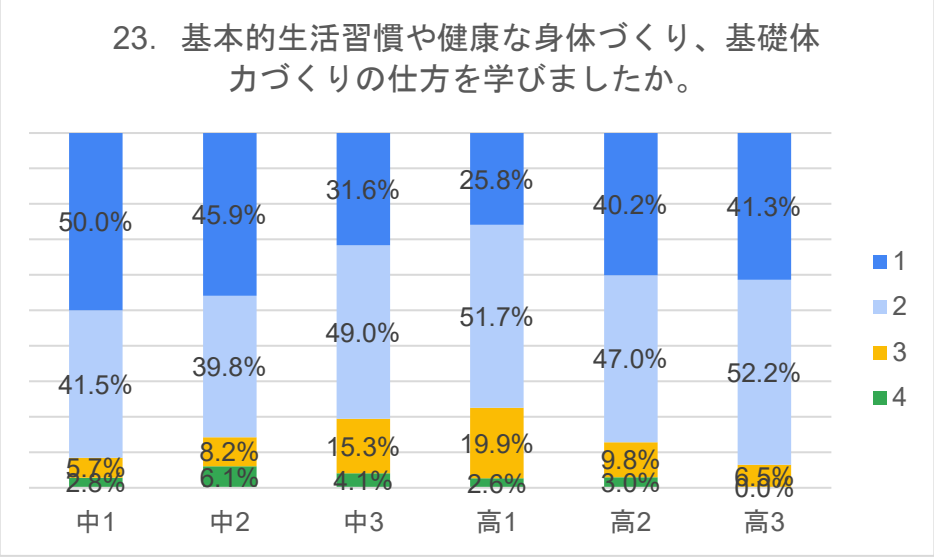
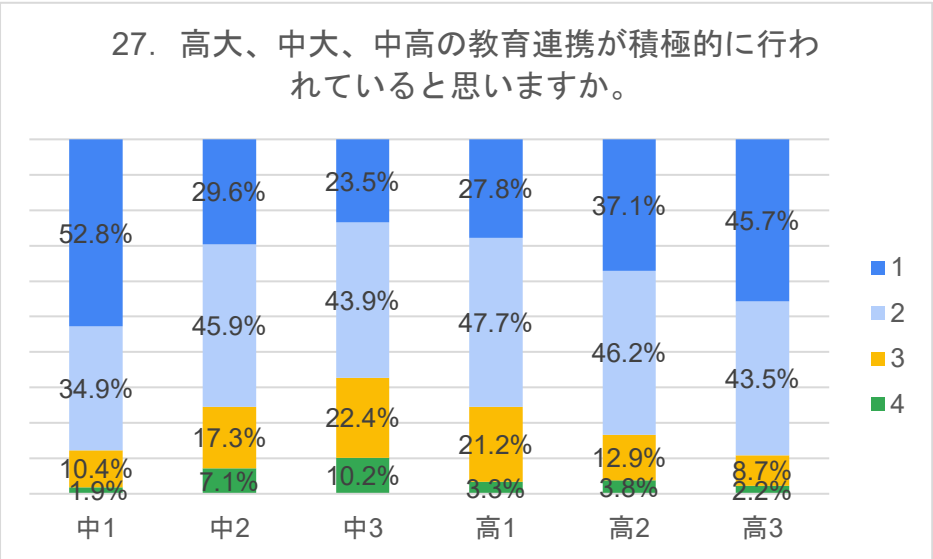
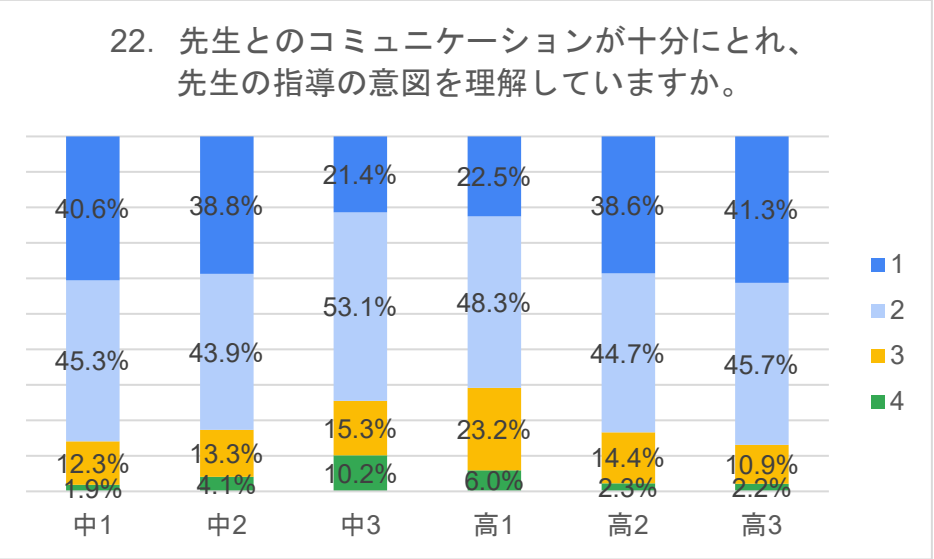
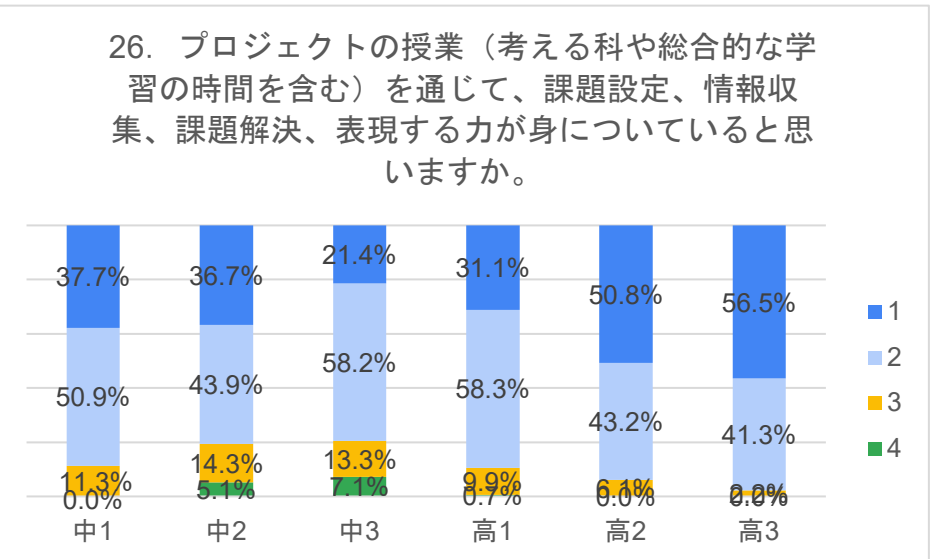
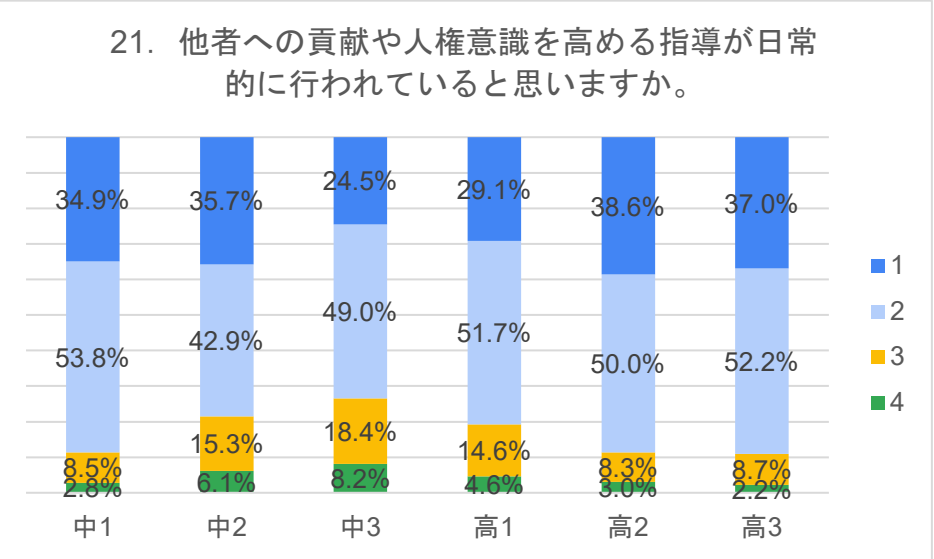
生徒集計

[1] そう思う [2] どちらかと言えばそう思う [3] どちらかと言えばそう思わない [4] そう思わない



生徒集計

[1] そう思う [2] どちらかと言えばそう思う [3] どちらかと言えばそう思わない [4] そう思わない



2025年度 関西大学中部・ 高等部 自己点検・ 評価アンケート 結果（ 保護者用）

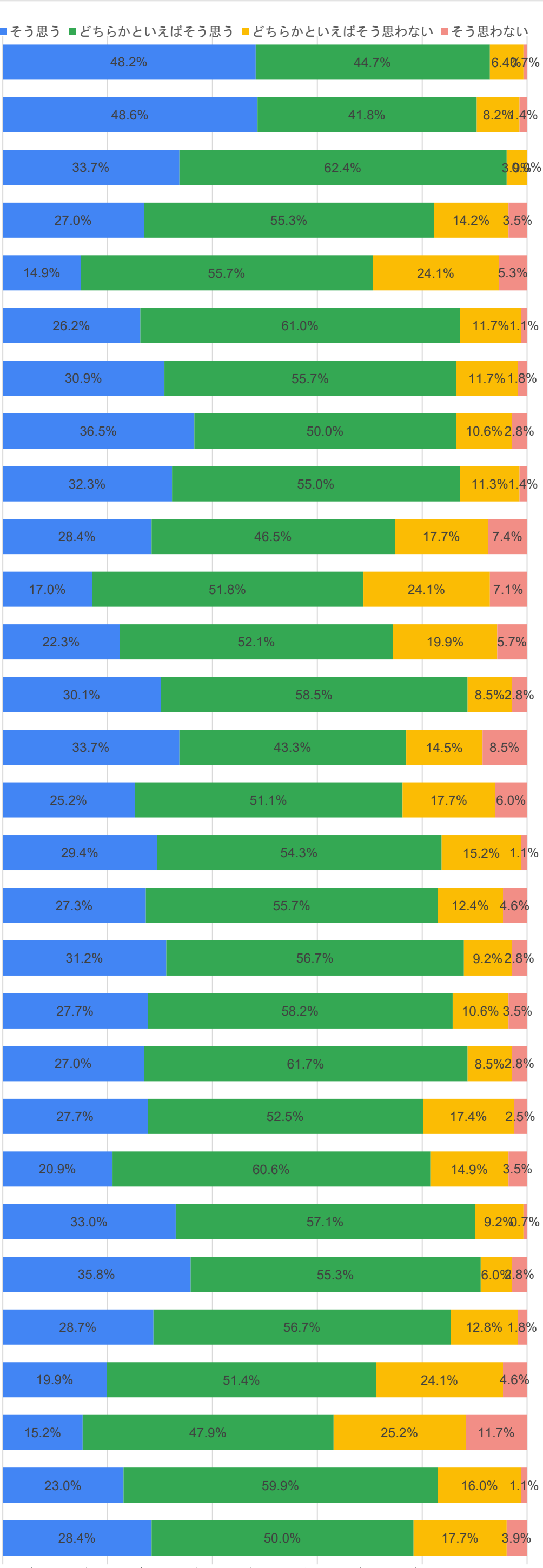
[1] そう思う [2] どちらかと言えばそう思う [3] どちらかと言えばそう思わない [4] そう思わない

NO	設問	中部部全体				高等部全体			
		1	2	3	4	1	2	3	4
1	お子様は、充実した学校生活を送っていると思われますか。	48.2%	44.7%	6.4%	0.7%	52.1%	42.2%	3.8%	1.9%
2	保護者として、本校に入学させて良かったと思われますか。	48.6%	41.8%	8.2%	1.4%	58.1%	33.7%	5.4%	2.9%
3	本校の教育方針・教育目標を理解されていますか。	33.7%	62.4%	3.9%	0.0%	37.5%	57.1%	4.8%	0.6%
4	教員間で相互理解を図り、連携して教育活動を行っていると思われますか。	27.0%	55.3%	14.2%	3.5%	33.0%	52.1%	11.4%	3.5%
5	ホームページや学年通信等を利用して、学校の様子がよくわかり、指導の意図が伝わっていますか。	14.9%	55.7%	24.1%	5.3%	24.4%	49.2%	22.2%	4.1%
6	避難訓練や安全対策など積極的な対策を講じていると思われますか。	26.2%	61.0%	11.7%	1.1%	34.9%	57.8%	7.0%	0.3%
7	事故、事件、災害に対する対応が的確に行われる組織になっていると思われますか。	30.9%	55.7%	11.7%	1.8%	37.8%	56.5%	4.8%	1.0%
8	個人情報の重要性をよく理解し、その保護に努めていると思われますか。	36.5%	50.0%	10.6%	2.8%	40.0%	46.3%	9.5%	4.1%
9	教育活動に対する地域の理解促進のための取組や、地域人材の活用を行い、社会に開かれた教育活動を行っていると思われますか。	32.3%	55.0%	11.3%	1.4%	39.4%	51.7%	7.3%	1.6%
10	学力向上のために組織的な取組を行っていると思われますか。	28.4%	46.5%	17.7%	7.4%	37.1%	47.3%	12.1%	3.5%
11	生徒が人生の目標をもち、そこから大学や学部を選び、主体的に進路選択ができる指導体制が取られていると思われますか。	17.0%	51.8%	24.1%	7.1%	40.6%	42.5%	11.7%	5.1%
12	主体的・対話的で深い学びを意識し、生徒が思考力を高めるための授業づくりに取り組んでいると思われますか。	22.3%	52.1%	19.9%	5.7%	37.8%	48.3%	11.7%	2.2%
13	生徒個々の学力とその推移を的確に把握していると思われますか。	30.1%	58.5%	8.5%	2.8%	42.2%	48.3%	7.0%	2.5%
14	タブレット端末やPCなど充実したICT環境を効果的に活用する授業づくりに取り組んでいると思われますか。	33.7%	43.3%	14.5%	8.5%	51.4%	39.4%	6.0%	3.2%
15	習熟が遅れた生徒へのフォローアップのために補習授業や個人指導の取組が行われていると思われますか。	25.2%	51.1%	17.7%	6.0%	32.4%	49.2%	14.0%	4.4%
16	学校からの連絡や懇談は緊密に行われていると思われますか。	29.4%	54.3%	15.2%	1.1%	37.1%	50.2%	9.8%	2.9%
17	学校や社会のルールを遵守させ、生徒としてのマナーやモラルを向上させる取組が行われていると思われますか。	27.3%	55.7%	12.4%	4.6%	40.3%	51.4%	5.1%	3.2%
18	いじめを許さない学校・学級作りに積極的に取り組んでいると思われますか。	31.2%	56.7%	9.2%	2.8%	39.0%	50.8%	9.2%	1.0%
19	授業や学級活動、行事などを通して、地域・社会の現状を伝え、自主的な社会貢献を促していると思われますか。	27.7%	58.2%	10.6%	3.5%	34.6%	52.4%	10.5%	2.5%
20	授業や学級活動、行事などを通して、他者の人権を尊重する教育が行われていると思われますか。	27.0%	61.7%	8.5%	2.8%	35.6%	53.7%	9.8%	1.0%
21	学校は、生徒の学校生活や家庭生活について、保護者との懇談や連絡を密に行い、相互理解を図っていると思われますか。	27.7%	52.5%	17.4%	2.5%	33.7%	51.7%	11.1%	3.5%
22	基本的生活習慣や健康な身体づくり、基礎体力づくりの指導が行われていると思われますか。	20.9%	60.6%	14.9%	3.5%	25.7%	60.3%	12.1%	1.9%
23	生徒が各学校行事の意義や目的を理解しており、主体的に活動することができる指導がなされていると思われますか。	33.0%	57.1%	9.2%	0.7%	40.6%	53.3%	3.8%	2.2%
24	国際理解教育プログラムを通じて、外国語運用能力を育成すると共に、異文化理解を促進させる取組が行われていると思われますか。	35.8%	55.3%	6.0%	2.8%	50.8%	43.8%	4.1%	1.3%
25	プロジェクト型の授業を通じて、課題設定、情報収集、課題解決、表現活動までの思考プロセスを習得させる取組が行われていると思われますか。	28.7%	56.7%	12.8%	1.8%	51.1%	44.8%	3.5%	0.6%
26	高大、中大、中高の教育連携が積極的に行われていると思われますか。	19.9%	51.4%	24.1%	4.6%	36.5%	49.8%	9.8%	3.8%
27	初等部と中部部・高等部との連携が十分に行われていると思われますか。	15.2%	47.9%	25.2%	11.7%	22.9%	52.4%	19.4%	5.4%
28	お子様に何らかの問題が生じたとき、教員、学校カウンセラーに相談ができる体制ができていると思われますか。	23.0%	59.9%	16.0%	1.1%	27.9%	55.9%	11.7%	4.4%
29	本校の教員は、教員の資質及び指導力の向上に努めようとしていると思われますか。	28.4%	50.0%	17.7%	3.9%	34.0%	48.9%	12.4%	4.8%

※ アンケート数値はそれぞれ小数第二位を四捨五入

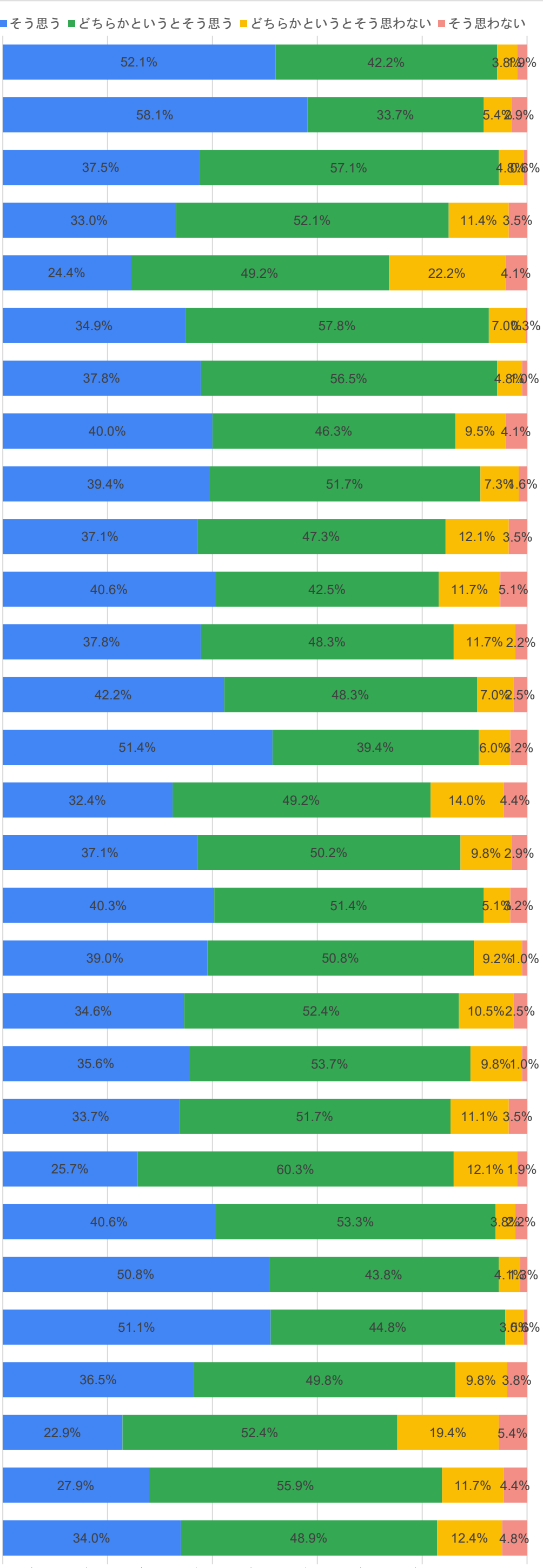
2025年度 関西大学中部部・高等部 自己点検・評価アンケート 結果(保護者用・中部部)

NO	設問
1	お子様は、充実した学校生活を送っていると思われますか。
2	保護者として、本校に入学させて良かったと思われますか。
3	本校の教育方針・教育目標を理解されていますか。
4	教員間で相互理解を図り、連携して教育活動を行っていると思われますか。
5	ホームページや学年通信等を利用して、学校の様子がよくわかり、指導の意図が伝わっていますか。
6	避難訓練や安全対策など積極的な対策を講じていると思われますか。
7	事故、事件、災害に対する対応が的確に行われる組織になっていると思われますか。
8	個人情報の重要性をよく理解し、その保護に努めていると思われますか。
9	教育活動に対する地域の理解促進のための取組や、地域人材の活用を行い、社会に開かれた教育活動を行っていると思われますか。
10	学力向上のために組織的な取組を行っていると思われますか。
11	生徒が人生の目標をもち、そこから大学や学部を選び、主体的に進路選択ができる指導体制が取られていると思われますか。
12	主体的・対話的で深い学びを意識し、生徒が思考力を高めるための授業づくりに取り組んでいると思われますか。
13	生徒個々の学力とその推移を的確に把握していると思われますか。
14	タブレット端末やPCなど充実したICT環境を効果的に活用する授業づくりに取り組んでいると思われますか。
15	習熟が遅れた生徒へのフォローアップのために補習授業や個人指導の取組が行われていると思われますか。
16	学校からの連絡や懇談は緊密に行われていると思われますか。
17	学校や社会のルールを遵守させ、生徒としてのマナーやモラルを向上させる取組が行われていると思われますか。
18	いじめを許さない学校・学級作りに積極的に取り組んでいると思われますか。
19	授業や学級活動、行事などを通して、地域・社会の現状を伝え、自主的な社会貢献を促していると思われますか。
20	授業や学級活動、行事などを通して、他者の人権を尊重する教育が行われていると思われますか。
21	学校は、生徒の学校生活や家庭生活について、保護者との懇談や連絡を密に行い、相互理解を図っていると思われますか。
22	基本的生活習慣や健康な身体づくり、基礎体力づくりの指導が行われていると思われますか。
23	生徒が各学校行事の意義や目的を理解しており、主体的に活動することができる指導がなされていると思われますか。
24	国際理解教育プログラムを通じて、外国語運用能力を育成すると共に、異文化理解を促進させる取組が行われていると思われますか。
25	プロジェクト型の授業を通じて、課題設定、情報収集、課題解決、表現活動までの思考プロセスを習得させる取組が行われていると思われますか。
26	高大、中大、中高の教育連携が積極的に行われていると思われますか。
27	初等部と中部部・高等部との連携が十分に行われていると思われますか。
28	お子様に何らかの問題が生じたとき、教員、学校カウンセラーに相談ができる体制ができていると思われますか。
29	本校の教員は、教員の資質及び指導力の向上に努めようとしていると思われますか。



2025年度 関西大学中部・高等部 自己点検・評価アンケート 結果(保護者用・高等部)

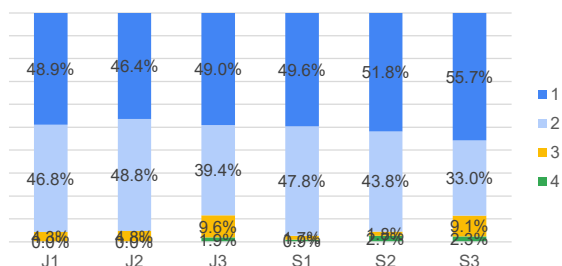
NO	設問
1	お子様は、充実した学校生活を送っていると思われますか。
2	保護者として、本校に入学させて良かったと思われますか。
3	本校の教育方針・教育目標を理解されていますか。
4	教員間で相互理解を図り、連携して教育活動を行っていると思われますか。
5	ホームページや学年通信等を利用して、学校の様子がよくわかり、指導の意図が伝わっていますか。
6	避難訓練や安全対策など積極的な対策を講じていると思われますか。
7	事故、事件、災害に対する対応が的確に行われる組織になっていると思われますか。
8	個人情報の重要性をよく理解し、その保護に努めていると思われますか。
9	教育活動に対する地域の理解促進のための取組や、地域人材の活用を行い、社会に開かれた教育活動を行っていると思われますか。
10	学力向上のために組織的な取組を行っていると思われますか。
11	生徒が人生の目標をもち、そこから大学や学部を選び、主体的に進路選択ができる指導体制が取られていると思われますか。
12	主体的・対話的で深い学びを意識し、生徒が思考力を高めるための授業づくりに取り組んでいると思われますか。
13	生徒個々の学力とその推移を的確に把握していると思われますか。
14	タブレット端末やPCなど充実したICT環境を効果的に活用する授業づくりに取り組んでいると思われますか。
15	習熟が遅れた生徒へのフォローアップのために補習授業や個人指導の取組が行われていると思われますか。
16	学校からの連絡や懇談は緊密に行われていると思われますか。
17	学校や社会のルールを遵守させ、生徒としてのマナーやモラルを向上させる取組が行われていると思われますか。
18	いじめを許さない学校・学級作りに積極的に取り組んでいると思われますか。
19	授業や学級活動、行事などを通して、地域・社会の現状を伝え、自主的な社会貢献を促していると思われますか。
20	授業や学級活動、行事などを通して、他者の人権を尊重する教育が行われていると思われますか。
21	学校は、生徒の学校生活や家庭生活について、保護者との懇談や連絡を密に行い、相互理解を図っていると思われますか。
22	基本的生活習慣や健康な身体づくり、基礎体力づくりの指導が行われていると思われますか。
23	生徒が各学校行事の意義や目的を理解しており、主体的に活動することができる指導がなされていると思われますか。
24	国際理解教育プログラムを通じて、外国語運用能力を育成すると共に、異文化理解を促進させる取組が行われていると思われますか。
25	プロジェクト型の授業を通じて、課題設定、情報収集、課題解決、表現活動までの思考プロセスを習得させる取組が行われていると思われますか。
26	高大、中大、中高の教育連携が積極的に行われていると思われますか。
27	初等部と中部・高等部との連携が十分に行われていると思われますか。
28	お子様に何らかの問題が生じたとき、教員、学校カウンセラーに相談ができる体制ができていると思われますか。
29	本校の教員は、教員の資質及び指導力の向上に努めようとしていると思われますか。



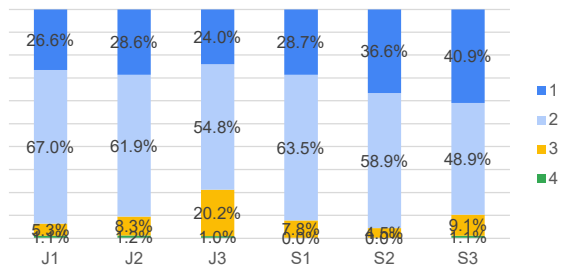
保護者集計

[1] そう思う [2] どちらかと言えばそう思う [3] どちらかと言えばそう思わない [4] そう思わない

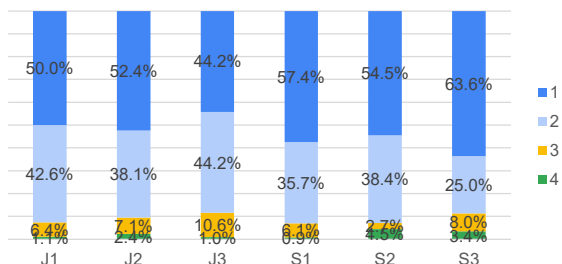
1. お子様は、充実した学校生活を送っていると思われませんか。



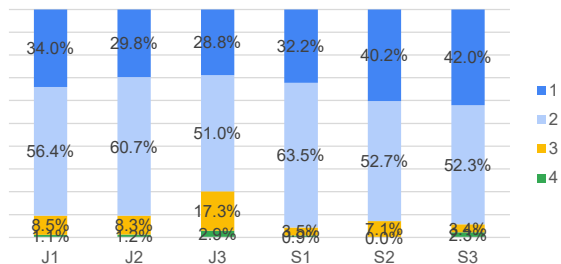
6. 避難訓練や安全対策など積極的な対策を講じていると思われませんか。



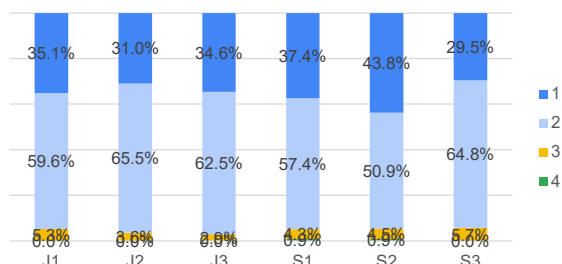
2. 保護者として、本校に入学させて良かったと思われませんか。



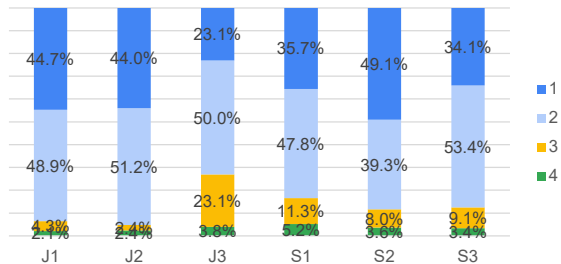
7. 事故、事件、災害に対する対応が的確に行われる組織になっていると思われませんか。



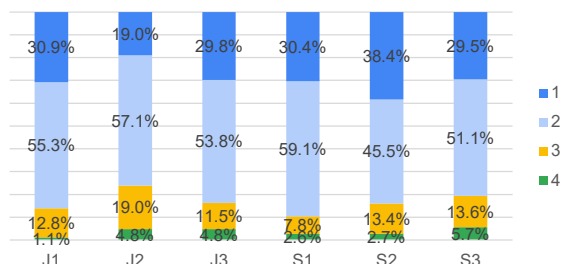
3. 本校の教育方針・教育目標を理解されていますか。



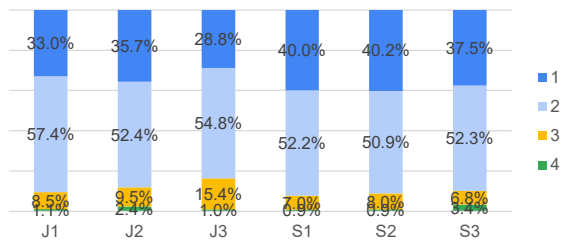
8. 個人情報の重要性をよく理解し、その保護に努めていると思われませんか。



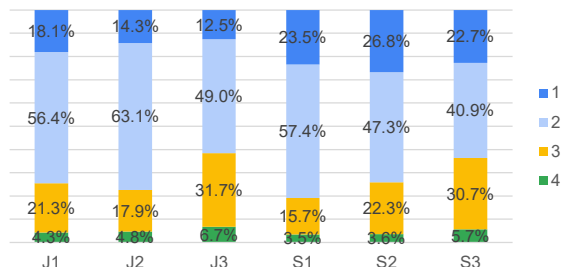
4. 教員間で相互理解を図り、連携して教育活動を行っていると思われませんか。



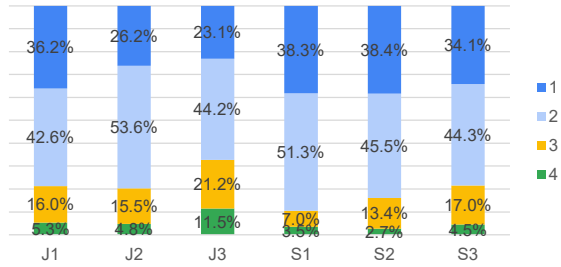
9. 教育活動に対する地域の理解促進のための取組や、地域人材の活用を行い、社会に開かれた教育活動を行っていると思われませんか。



5. ホームページや学年通信等を利用して、学校の様子がよくわかり、指導の意図が伝わっていますか。



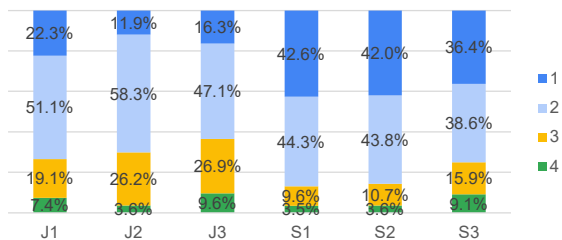
10. 学力向上のために組織的な取組を行っていると思われませんか。



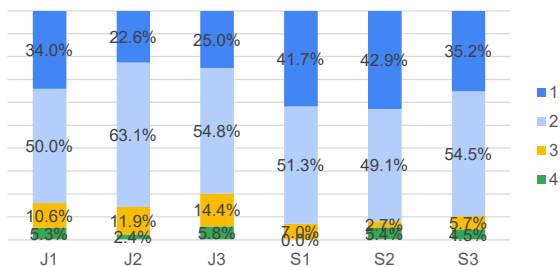
保護者集計

[1] そう思う [2] どちらかと言えばそう思う [3] どちらかと言えばそう思わない [4] そう思わない

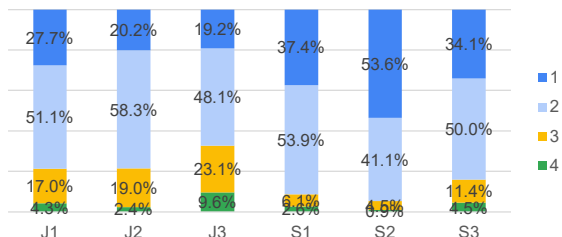
11. 生徒が人生の目標をもち、そこから大学や学部を選び、主体的に進路選択ができる指導体制が取られていると思われますか。



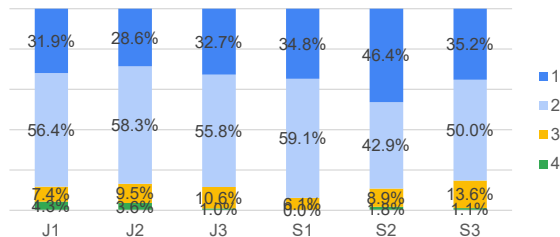
16. 学校からの連絡や懇談は緊密に行われていると思われますか。



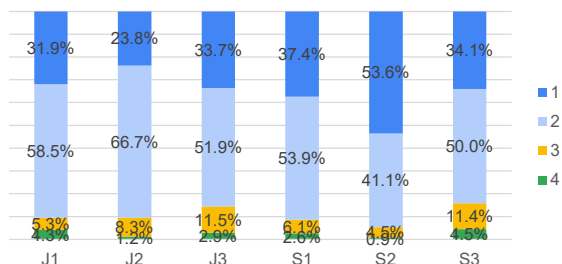
12. 主体的・対話的で深い学びを意識し、生徒が思考力を高めるための授業づくりに取り組んでいると思われますか。



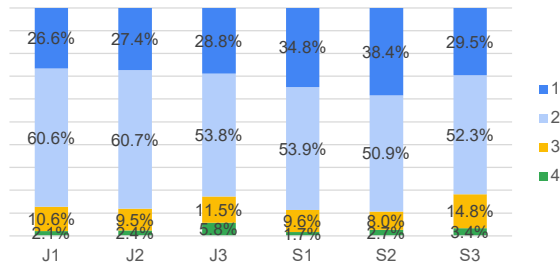
17. 学校や社会のルールを遵守させ、生徒としてのマナーやモラルを向上させる取組が行われていると思われますか。



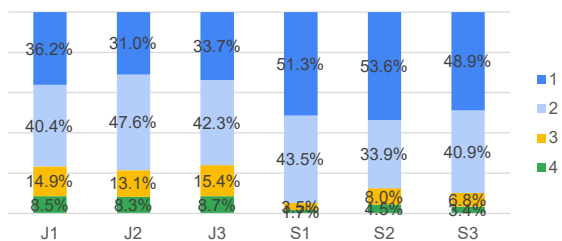
13. 生徒個々の学力とその推移を的確に把握していると思われますか。



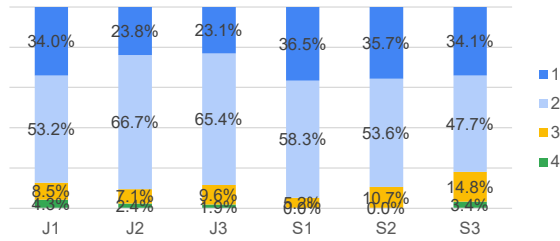
18. いじめを許さない学校・学級作りに積極的に取り組んでいると思われますか。



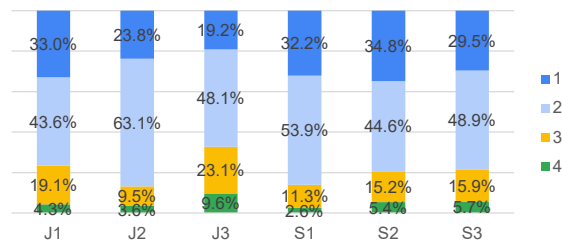
14. タブレット端末やPCなど充実したICT環境を効果的に活用する授業づくりに取り組んでいると思われますか。



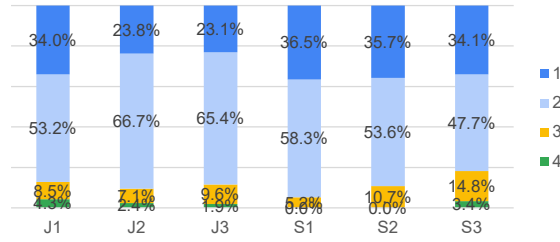
19. 授業や学級活動、行事などを通して、地域・社会の現状を伝え、自主的な社会貢献を促していると思われますか。



15. 習熟が遅れた生徒へのフォローアップのために補習授業や個人指導の取組が行われていると思われますか。



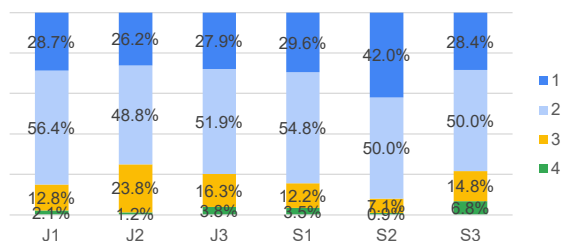
20. 授業や学級活動、行事などを通して、他者の人権を尊重する教育が行われていると思われますか。



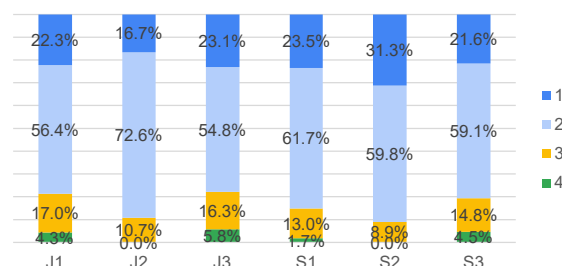
保護者集計

[1] そう思う [2] どちらかと言えばそう思う [3] どちらかと言えばそう思わない [4] そう思わない

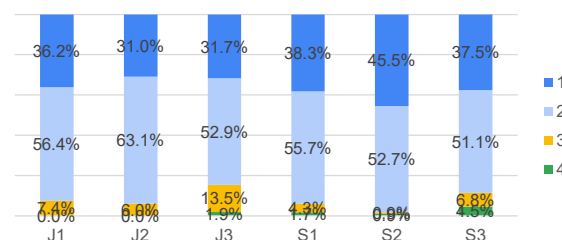
21. 学校は、生徒の学校生活や家庭生活について、保護者との懇談や連絡を密に行い、相互理解を図っていると思われますか。



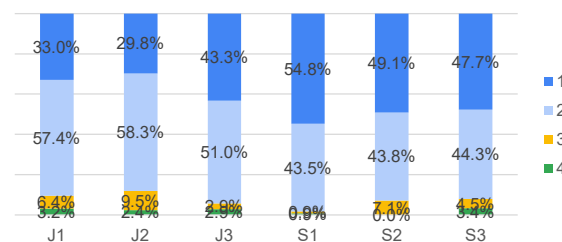
22. 基本的な生活習慣や健康な身体づくり、基礎体力づくりの指導が行われていると思われますか。



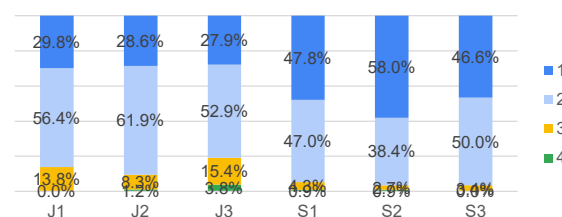
23. 生徒が各学校行事の意義や目的を理解しており、主体的に活動することができている指導がなされていると思われますか。



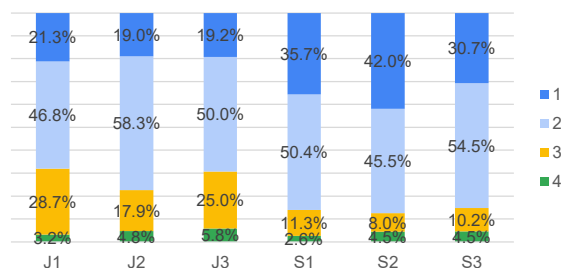
24. 国際理解教育プログラムを通じて、外国語運用能力を育成すると共に、異文化理解を促進させる取組が行われていると思われますか。



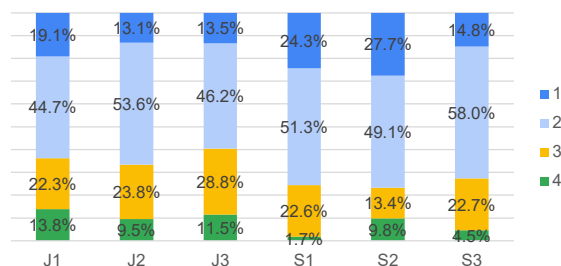
25. プロジェクト型の授業を通じて、課題設定、情報収集、課題解決、表現活動までの思考プロセスを習得させる取組が行われていると思われますか。



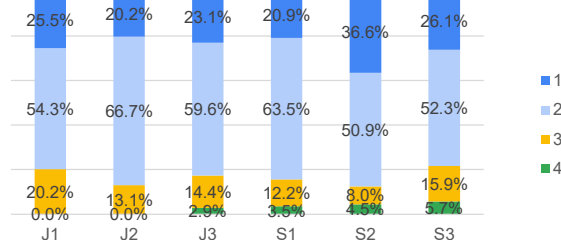
26. 高大、中大、中高の教育連携が積極的に行われていると思われますか。



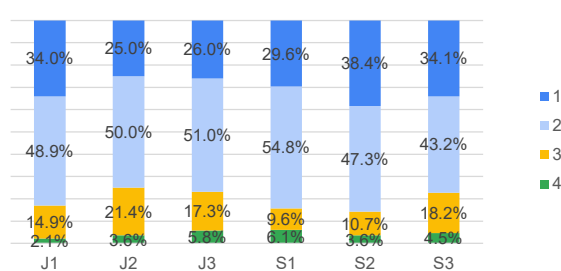
27. 初等部と中等部・高等部との連携が十分に行われていると思われますか。



28. お子様に何らかの問題が生じたとき、教員、学校カウンセラーに相談ができる体制ができていると思われますか。



29. 本校の教員は、教員の資質及び指導力の向上に努めようとしていると思われますか。



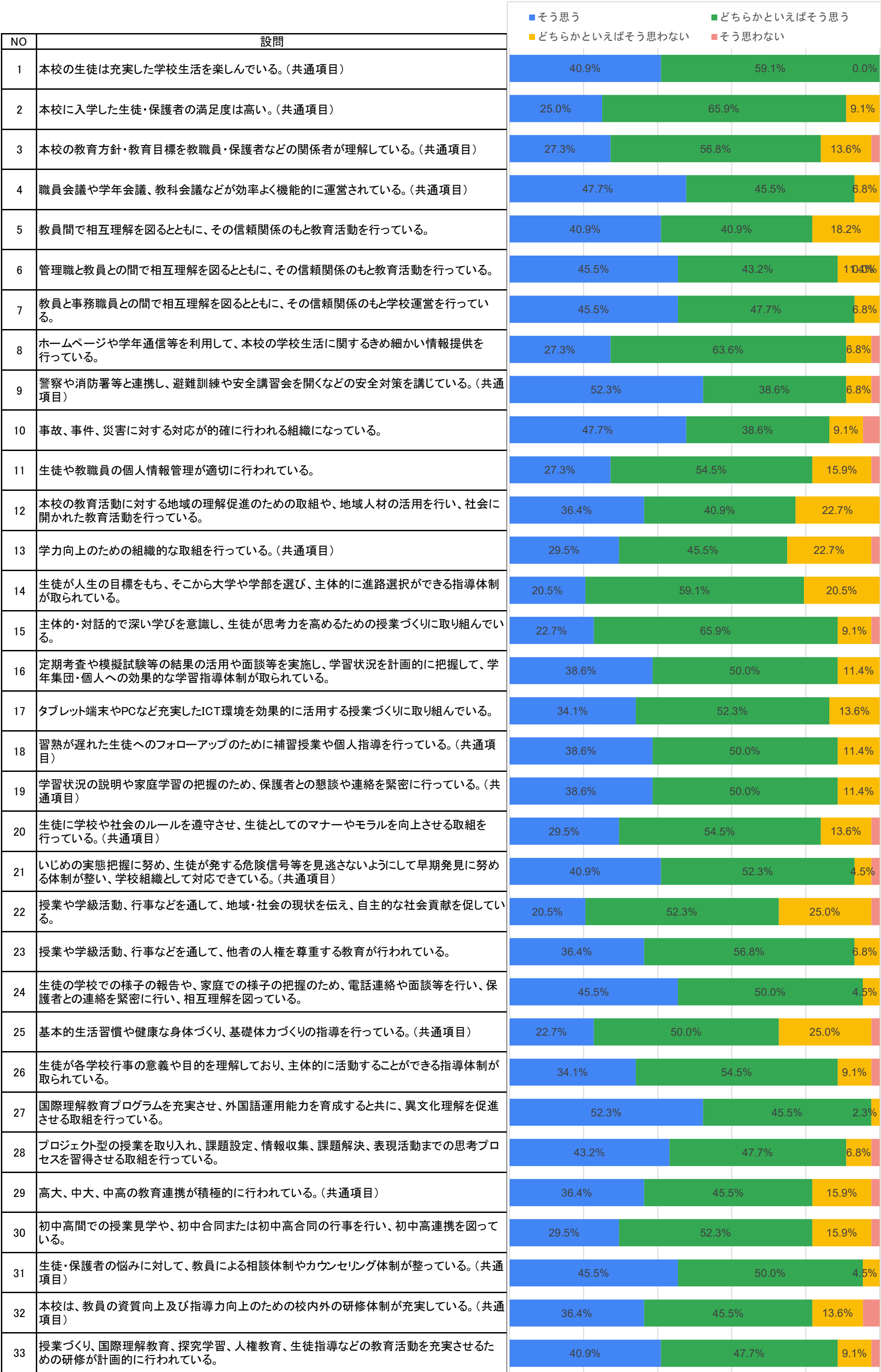
2025年度 関西大学中部・高等部 自己点検・評価アンケート 結果（教員用）

[1] そう思う [2] どちらかと言えばそう思う [3] どちらかと言えばそう思わない [4] そう思わない

NO	設問	1	2	3	4
1	本校の生徒は充実した学校生活を楽しんでいる。（共通項目）	40.9%	59.1%	0.0%	0.0%
2	本校に入学した生徒・保護者の満足度は高い。（共通項目）	25.0%	65.9%	9.1%	0.0%
3	本校の教育方針・教育目標を教職員・保護者などの関係者が理解している。（共通項目）	27.3%	56.8%	13.6%	2.3%
4	職員会議や学年会議、教科会議などが効率よく機能的に運営されている。（共通項目）	47.7%	45.5%	6.8%	0.0%
5	教員間で相互理解を図るとともに、その信頼関係のもと教育活動を行っている。	40.9%	40.9%	18.2%	0.0%
6	管理職と教員との間で相互理解を図るとともに、その信頼関係のもと教育活動を行っている。	45.5%	43.2%	11.4%	0.0%
7	教員と事務職員との間で相互理解を図るとともに、その信頼関係のもと学校運営を行っている。	45.5%	47.7%	6.8%	0.0%
8	ホームページや学年通信等を利用して、本校の学校生活に関するきめ細かい情報提供を行っている。	27.3%	63.6%	6.8%	2.3%
9	警察や消防署等と連携し、避難訓練や安全講習会を開くなどの安全対策を講じている。（共通項目）	52.3%	38.6%	6.8%	2.3%
10	事故、事件、災害に対する対応が的確に行われる組織になっている。	47.7%	38.6%	9.1%	4.5%
11	生徒や教職員の個人情報管理が適切に行われている。	27.3%	54.5%	15.9%	2.3%
12	本校の教育活動に対する地域の理解促進のための取組や、地域人材の活用を行い、社会に開かれた教育活動を行っている。	36.4%	40.9%	22.7%	0.0%
13	学力向上のための組織的な取組を行っている。（共通項目）	29.5%	45.5%	22.7%	2.3%
14	生徒が人生の目標をもち、そこから大学や学部を選び、主体的に進路選択ができる指導体制が取られている。	20.5%	59.1%	20.5%	0.0%
15	主体的・対話的で深い学びを意識し、生徒が思考力を高めるための授業づくりに取り組んでいる。	22.7%	65.9%	9.1%	2.3%
16	定期考査や模擬試験等の結果の活用や面談等を実施し、学習状況を計画的に把握して、学年集団・個人への効果的な学習指導体制が取られている。	38.6%	50.0%	11.4%	0.0%
17	タブレット端末やPCなど充実したICT環境を効果的に活用する授業づくりに取り組んでいる。	34.1%	52.3%	13.6%	0.0%
18	習熟が遅れた生徒へのフォローアップのために補習授業や個人指導を行っている。（共通項目）	38.6%	50.0%	11.4%	0.0%
19	学習状況の説明や家庭学習の把握のため、保護者との懇談や連絡を緊密に行っている。（共通項目）	38.6%	50.0%	11.4%	0.0%
20	生徒に学校や社会のルールを遵守させ、生徒としてのマナーやモラルを向上させる取組を行っている。（共通項目）	29.5%	54.5%	13.6%	2.3%
21	いじめの実態把握に努め、生徒が発する危険信号等を見逃さないようにして早期発見に努める体制が整い、学校組織として対応できている。（共通項目）	40.9%	52.3%	4.5%	2.3%
22	授業や学級活動、行事などを通して、地域・社会の現状を伝え、自主的な社会貢献を促している。	20.5%	52.3%	25.0%	2.3%
23	授業や学級活動、行事などを通して、他者の人権を尊重する教育が行われている。	36.4%	56.8%	6.8%	0.0%
24	生徒の学校での様子の報告や、家庭での様子の把握のため、電話連絡や面談等を行い、保護者との連絡を緊密に行い、相互理解を図っている。	45.5%	50.0%	4.5%	0.0%
25	基本的生活習慣や健康な身体づくり、基礎体力づくりの指導を行っている。（共通項目）	22.7%	50.0%	25.0%	2.3%
26	生徒が各学校行事の意義や目的を理解しており、主体的に活動することができる指導体制が取られている。	34.1%	54.5%	9.1%	2.3%
27	国際理解教育プログラムを充実させ、外国語運用能力を育成すると共に、異文化理解を促進させる取組を行っている。	52.3%	45.5%	2.3%	0.0%
28	プロジェクト型の授業を取り入れ、課題設定、情報収集、課題解決、表現活動までの思考プロセスを習得させる取組を行っている。	43.2%	47.7%	6.8%	2.3%
29	高大、中大、中高の教育連携が積極的に行われている。（共通項目）	36.4%	45.5%	15.9%	2.3%
30	初中高間での授業見学や、初中合同または初中高合同の行事を行い、初中高連携を図っている。	29.5%	52.3%	15.9%	2.3%
31	生徒・保護者の悩みに対して、教員による相談体制やカウンセリング体制が整っている。（共通項目）	45.5%	50.0%	4.5%	0.0%
32	本校は、教員の資質向上及び指導力向上のための校内外の研修体制が充実している。（共通項目）	36.4%	45.5%	13.6%	4.5%
33	授業づくり、国際理解教育、探究学習、人権教育、生徒指導などの教育活動を充実させるための研修が計画的に行われている。	40.9%	47.7%	9.1%	2.3%

※ アンケート数値はそれぞれ小数第二位を四捨五入

2025年度 関西大学中部部・高等部 自己点検・評価アンケート 結果(教員用)



教員集計

[1] そう思う [2] どちらかと言えばそう思う [3] どちらかと言えばそう思わない [4] そう思わない

1. 本校の生徒は充実した学校生活を楽しんでいる。（共通項目） 0.0% 0.0% 40.9% 59.1%
--

教員集計

[1] そう思う [2] どちらかと言えばそう思う [3] どちらかと言えばそう思わない [4] そう思わない

19. 学習状況の説明や家庭学習の把握のため、保護者との懇談や連絡を緊密に行っている。 (共通項目) 11.4% 0.0% 38.6% 50.0% ① ② ③ ④
--